

科目名	人間の理解Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小林 桂子	配当年次	1学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

人権や権利擁護についての日本や諸外国の歴史的経緯を学ぶ。
「人間」の多面的な理解を図ることを基礎として、介護福祉士に求められる人権尊重や権利擁護について学び、自立（自律）の考え方や尊厳を守る介護と自立支援の視点を考察する。

到達目標

この科目を学習することにより、介護を必要としている者の全人間的理解、介護福祉士としての倫理基盤を涵養することができる。そして人間の尊厳を保持し、自立した生活を支える必要性について理解できることを目指す。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	人間の尊厳と個人の尊厳
第2回	人間の尊厳と利用者主体
第3回	権利擁護の歴史的経緯
第4回	人権、そして尊厳に関する日本の諸規定
第5回	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①
第6回	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②
第7回	人権尊重と権利擁護
第8回	権利侵害の現状と背景
第9回	自立のあり方（身体的・精神的・社会的自立）
第10回	自立を支える介護とは
第11回	介護における自立支援の実践
第12回	尊厳を守る介護と自立支援の関係性（実情と課題）
第13回	尊厳を守る介護とは
第14回	介護における尊厳保持の実践
第15回	期末試験実施・解答解説
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

事前学習：テキストに目を通してくること（該当ページは授業内にて指示）
事後学習：授業内容の理解度をはかるため、必要に応じて確認テストを実施（実施については事前に授業内にて指示）

成績評価

期末試験90% 確認テスト10% において評価する

講義の他、学習内容を深めるためにグループワークを行う
積極的に授業に参加することを期待する

使用テキスト

テキスト：最新・介護福祉士養成講座第Ⅰ巻「人間の理解」中央法規
資料：随時ワークシートを配布

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科 目 名	人間の理解Ⅱ	対 象 学 科	介護福祉学科		
担 当 教 員	小林 桂子	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	後期
		授 業 形 態	講義	単 位	1単位
授 業 概 要					
対人援助を行うためには、利用者との良好な人間関係の構築が必要である。人間の理解Ⅰ「人間の尊厳と自立」で学習したことを踏まえながら、専門職として必要な基本的態度の習得や、対人関係を形成するために必要なコミュニケーションの基礎的な知識を身につける。チームで働くことの意義や、組織におけるコミュニケーションについて基礎的知識を学ぶ。					
到 達 目 標					
・良好な人間関係を構築するために必要なコミュニケーションの意義と機能について理解することができる。 ・組織において求められるコミュニケーションについて理解することができる。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	人間と人間関係（自己理解）				
第2回	人間と人間関係（他者理解）				
第3回	人間関係形成のために必要なこと				
第4回	発達心理学からみた人間関係				
第5回	社会心理学からみた人間関係				
第6回	人間関係とストレス				
第7回	対人関係におけるコミュニケーションⅠ（コミュニケーションの概念と基本構造）				
第8回	対人関係におけるコミュニケーションⅡ（コミュニケーションの手段）				
第9回	対人関係におけるコミュニケーションⅢ（コミュニケーションの手段）				
第10回	対人援助関係とコミュニケーションⅠ（対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション）				
第11回	対人援助関係とコミュニケーションⅡ（対人援助における基本的態度）				
第12回	対人援助関係とコミュニケーションⅢ（援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則）				
第13回	組織におけるコミュニケーションⅠ（組織の条件とコミュニケーションの特徴、組織における情報の流れ）				
第14回	組織におけるコミュニケーションⅡ（組織において求められるコミュニケーション）				
第15回	期末試験実施・解答解説				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
事前学習：テキストに目を通していただくこと（該当ページは授業内にて指示） 事後学習：授業内容の理解度をはかるため、必要に応じて確認テストを実施（実施について事前に授業内にて指示）					
成 績 評 価					
期末試験90% 確認テスト10% において評価する					
講義のほか、学習内容を深めるために必要に応じてグループワークも行う 積極的に授業に参加することを期待する					
使用テキスト					
テキスト：最新・介護福祉士養成講座第1巻「人間の理解」 第2版 中央法規 資料：随時ワークシートを配布					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。					

2024年度

科目名	社会の理解Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	川村 仁美	配当年次	1学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

「社会の理解」では、個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉え、対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。また、日本の社会保障の基本的な考え方やしきみについて理解する科目である。

「社会の理解Ⅰ」では、地域社会での生活と支援について基礎的な知識を身につける観点から、以下を目的とする。

- (1) 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。
(2) 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。

到達目標

- ・個人・家族・地域・社会のしくみ、地域における生活の構造について学び、生活の基本機能とライフサイクルを理解できる。
- ・生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。
- ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としきみ、その実現のため制度・施策を理解できる。
- ・社会保障制度の基本的な考え方としきみ、社会保障の現状と課題を理解できる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション／社会と生活のしくみ1（生活の基本機能）
第2回	社会と生活のしくみ2（ライフスタイルの変化／家族の機能と役割）
第3回	社会と生活のしくみ3（社会・組織の機能と役割／地域・地域社会／地域社会における生活支援）
第4回	地域共生社会の実現に向けた制度や施策1（地域福祉の発展）
第5回	地域共生社会の実現に向けた制度や施策2（地域共生社会／地域包括ケア）
第6回	第1回～第5回のまとめ
第7回	社会保障制度1（社会保障の基本的な考え方）
第8回	社会保障制度2（日本の社会保障制度の発達①）
第9回	社会保障制度3（日本の社会保障制度の発達②）
第10回	社会保障制度4（日本の社会保障制度のしくみ①）
第11回	社会保障制度5（日本の社会保障制度のしくみ②）
第12回	社会保障制度6（日本の社会保障制度のしくみ③）
第13回	社会保障制度7（現代社会と社会保障制度）
第14回	第7回～第13回のまとめ
第15回	期末試験および解説
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

【講義前】1.0時間

- ・UMUにて配布される講義資料を確認すること

【講義後】1.5時間

- ・講義で学習した範囲を自宅等で振り返り、復習すること
- ・小テストや介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること

成績評価

定期試験 90%

小テスト 10%

※小テストの開催回は都度お伝えします

使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座2

社会の理解【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集

中央法規出版株式会社/発行

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	社会の理解Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	川村 仁美	配当年次	1学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

「社会の理解Ⅱ」では、障害児者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。「社会の理解Ⅰ」での学びを踏まえ、障害児者福祉と障害児者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度について具体的に学ぶ科目である。

- 「社会の理解Ⅱ」では、介護を必要とする方に対する法制度の基礎的な知識を身につける観点から、以下をねらいとする。
- （１）障害児者福祉の制度・施策について、基本的な考え方しくみ、障害者福祉の現状と課題等を理解する学習とする。
 - （２）人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護等、介護実践に関連する制度・施策について、基礎的な知識を習得する。

到達目標

- ・日本における障害児者福祉制度の現状と課題を理解し、障害児者福祉制度の展望を考えることができる。
- ・障害児者福祉制度の基本的な考え方としくみ、「障害者総合支援法」の内容を理解することができる。
- ・介護領域に隣接する保健医療の各制度・施策について理解できる。
- ・権利擁護や個人情報保護など、人間の尊厳と自立に関わる介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解することができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション／障害者保健福祉に関する制度１（障害者保健福祉の動向／障害者の定義）
第2回	障害者保健福祉に関する制度２（障害者福祉の歴史）
第3回	障害者保健福祉に関する制度３（障害者保健福祉の法律、障害児に対する支援）
第4回	障害者総合支援制度１（障害福祉サービスの種類と内容）
第5回	障害者総合支援制度２（自立支援給付・地域生活支援事業内容、障害福祉サービス利用手続き、相談支援）
第6回	障害者総合支援制度３（国・地方公共団体の役割、財源と利用者負担）
第7回	第１回～第６回のまとめ
第8回	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策（生活保護法、生活困窮者自立支援法）
第9回	個人の権利を守る制度・施策１（虐待防止に関する制度）
第10回	個人の権利を守る制度・施策２（成年後見制度、日常生活自立支援事業、消費者保護に関する制度）
第11回	個人の権利を守る制度・施策３（その他個人の権利を守る制度）／保健医療に関する制度・施策１（保健医療）
第12回	保健医療に関する制度・施策２（生活習慣病・結核・感染症・HIV／エイズの予防・対策）
第13回	地域生活を支援する制度・施策（就労支援・雇用促進、住生活支援、自殺予防、その他）
第14回	第８回～第13回のまとめ
第15回	学期末試験および解説
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

【講義前】1.0時間

- ・UMUにて配布される講義資料を確認すること

【講義後】1.5時間

- ・講義で学習した範囲を自宅等で振り返り、復習すること
- ・小テストや介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること

成績評価

定期試験 90%
小テスト 10%

※小テストの開催回は都度お伝えします

使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座２
社会の理解【第２版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集
中央法規出版株式会社/発行

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	社会の理解Ⅲ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	鈴木 正貴	配当年次	1学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

この授業では、介護保険制度ができた経緯とその背景を学ぶ。また、この先にどのような制度や仕組みが社会から必要とされるのか、日本が今置かれている状況を理解する。今後期待される、福祉人材として広い視野を持ち現場さらには業界をリードしていく福祉人材の育成を目指す。

到達目標

この科目を受講する学生は、社会保障制度がどのようにして変わってきたのか、制度の変遷を理解する。そのうえで、制度だけでは人々の暮らしは当然豊かにならない基本的な考え方を理解することがねらいである。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	はじめに 制度理解に向けて
第2回	高齢者保健福祉の動向～高齢者保健福祉に関する歴史・人口の高齢化と高齢者保健福祉
第3回	高齢者保健福祉の動向～高齢者の健康保持と社会参加
第4回	高齢者保健福祉の動向～高齢者保健福祉における今日的課題と展望
第5回	高齢者保健福祉に関連する法体系～高齢社会対策基本法
第6回	高齢者保健福祉に関連する法体系～老人福祉法・高齢者の医療の確保に関する法律
第7回	介護保険制度～介護保険制度創設の背景と目的
第8回	介護保険制度～介護保険制度のしくみの基本的理解
第9回	介護保険制度～介護保険制度のしくみの基本的理解
第10回	介護保険制度～介護保険制度のしくみの基本的理解
第11回	介護保険制度～介護保険制度における組織
第12回	介護保険制度～団体の役割・介護保険制度における介護支援専門員の役割
第13回	介護保険制度～介護保険制度の動向
第14回	試験対策
第15回	筆記試験

授業時間外の学習

事前学習：テキストを事前学習し、講義内容を把握する。

成績評価

小テスト、学期末試験にて評価をする。

- ①小テスト 10%
②学期末試験 90%

使用テキスト

中央法規出版「新・介護福祉士養成講座」
レジュメ・資料

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	生活文化 I	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	キャリア支援課、山田 萌、桑山 史人	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

この授業は、皆さん一人ひとりが介護福祉士としてどのようなキャリア（職業人生）を歩みたいのか、卒業後の進路を共に考えるものです。

具体的には、自分自身のことをよく知るための「自己理解」に焦点を当て、個人ワークを中心に進めます。

また、「職業理解」を図るために、社会福祉施設で働く現場の方による講話をオムニバス形式で実施します。

（なお、ゲストスピーカーの都合により講義回が前後することがあります）

到達目標

・自身の興味・能力・価値観を認識し、これまでの経験を振り返ることで、「自己理解」を深める。

・自身のことを他者に伝えることができる（自己PRができる）。

・介護福祉士として活躍できる場を知り、自分なりの介護観を考える。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	4/15 授業ガイダンス
第2回	5/20 キャリアとは、キャリア形成の考え方
第3回	6/3 【自己理解】 キャリアを考える3つの視点
第4回	6/24 【自己理解】 強みを考える
第5回	7/1 【自己理解】 自己PRの作成
第6回	8/19 【職業理解】 特別養護老人ホーム編
第7回	8/26 【職業理解】 介護老人保健施設編
第8回	9/30 【職業理解】 有料老人ホーム編
第9回	10/7 【職業理解】 オンライン見学
第10回	10/21 【自己理解】 自己PR発表
第11回	12/9 【自己理解】 実習の振り返り
第12回	12/16 【職業理解】 障がい者施設編
第13回	1/20 ワールドカフェ
第14回	2/10 進路決定プロセス、2年次の行動計画作成
第15回	2/17 科目のまとめ

授業時間外の学習

毎回の授業の振り返りを行い、「自己理解」「職業理解」を深める。

ゲストスピーカーによる講話前にはその法人について下調べをする。

4号館4階図書室の求人ファイルや求人検索システム「ASK ME!」を利用し、進路に関する情報収集をする。

成績評価

科目試験（筆記試験・持ち込み不可）：90%

自己PR発表、毎回講義後の振り返りコメントの提出および内容：10%

使用テキスト

適時、資料配付。

担当教員の実務経験

科目名	生活文化Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子、木下 愛成	配当年次	1学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

<情報処理：5回>

現代の社会活動ではコンピュータの活用は不可欠であることを踏まえ、その基本的な操作を習得する。
キーボードやタッチパッドの使用方法、ファイル・フォルダの整理、インターネット検索の仕方、Officeソフトの紹介含め、
初歩的な操作から学校で必要不可欠なシステムの操作方法を修得する。

<レクリエーション援助法：10回>

「レクリエーション」とは、人の生活に欠かせない活動の総称である。本講義では、レクリエーションの意義、概念、支援方法等について学習していく。近年、高齢者介護の現場で実践されている介護予防やアクティビティケアについても理解を深める。

到達目標

<情報処理>

パソコンの初歩的なキーボード・タッチパッド操作や、ブラウザでのネット検索やファイル・フォルダの操作など、パソコンを使用していく上で必要な操作を一通り学ぶ。また、2年間の授業で利用するシステムについて操作方法を理解し、正しく活用できるようにする。

- ①入力・操作方法の理解、タッチタイプ（ブラインドタッチ）の方法理解
- ②Teams、UMU等の学校システムの理解・活用
- ③情報リテラシーの理解、ブラウザを用いたインターネット検索（テキスト、画像、動画、ページ内検索等）
- ④ファイル・フォルダの整理方法の理解・実施
- ⑤Officeソフトの理解

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
<情報処理>第1回	導入(授業概要および目標、成績評価)、キーボード操作・タッチパッドの理解、タッチタイプ方法の理解
<情報処理>第2回	Teams、UMU等の学校システムの理解・実際の活用（授業資料のダウンロード）
<情報処理>第3回	ブラウザでのネット検索方法修得及び、情報リテラシーの理解（SNS利用含む）
<情報処理>第4回	ファイル・フォルダの整理方法の理解、実際の整理（OneDrive利用）
<情報処理>第5回	Officeソフトの紹介および理解、UMUの活用（課題提出）
<レクリエーション援助法>第1回	授業オリエンテーション：レクリエーションの基本的理解
<レクリエーション援助法>第2回	実技①：介護現場のレクリエーションとは：「楽しみ」を知る活動
<レクリエーション援助法>第3回	実技②：レクリエーション支援におけるコミュニケーション：ホスピタリティと信頼関係
<レクリエーション援助法>第4回	実技③：レクリエーション支援におけるコミュニケーション：余暇生活と生活の活性化
<レクリエーション援助法>第5回	実技④：レクリエーションを通した元気づくり：身体を動かそう
<レクリエーション援助法>第6回	実技⑤：レクリエーションを通した元気づくり：アロマでリラックス
<レクリエーション援助法>第7回	実技⑥：レクリエーション援助計画と実施：グループワーク活動
<レクリエーション援助法>第8回	実技⑦：レクリエーション援助計画と実施：グループワーク活動
<レクリエーション援助法>第9回	実技⑧：レクリエーションを通した元気づくり：臨床動作法の体験
<レクリエーション援助法>第10回	期末試験・解説

授業時間外の学習

<情報処理>

初回授業でタッチタイプについて、修得方法をお伝えします。
日々練習することでタイピング速度が上がります。是非練習してみてください。
また、Teams、UMU等のシステム利用や、ブラウザでの検索など、日々PCを使用してみてください。

<レクリエーション援助法>

成績評価

<情報処理>

小テスト10%、課題提出試験90%

<レクリエーション援助法>

学期末におこなわれる定期試験及び授業内でおこなわれる小テストをもって評価する。
評価の割合は以下のとおりとする。

- ①定期試験（期末試験） 90%

使用テキスト

<情報処理>

PDF資料、情報倫理ハンドブック

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	介護の基本Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	川村 仁美	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

「介護の基本」では、介護福祉の基本となる理念の理解をはじめ、介護福祉士としての倫理に基づき、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ科目である。

「介護の基本Ⅰ」では、介護福祉の基本的な知識の理解を目的とし、以下をねらいとした学習を行う。

- ・介護福祉の基本となる理念や、法律を根拠とした介護福祉士に求められる役割や倫理を理解する。
- ・介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

到達目標

- ・介護ニーズ（複雑化・多様化・高度化）及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題としてとらえることができる。
- ・尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解することができる。
- ・地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等のさまざまな場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できる。
- ・介護福祉の専門性と倫理を理解することができる。
- ・介護福祉に求められる専門職としての態度を養うことができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション／介護福祉を取り巻く状況1（介護の成り立ち）	第21回	介護福祉士の活動の場と役割3（医療的ケア）
第2回	介護福祉を取り巻く状況2（介護福祉を取り巻く状況①）	第22回	介護福祉士の活動の場と役割4（人生の最終段階の支援）
第3回	介護福祉を取り巻く状況3（介護福祉を取り巻く状況②）	第23回	介護福祉士の活動の場と役割5（災害時の支援）
第4回	介護福祉の理念1（介護福祉の理念）	第24回	介護福祉士の活動の場と役割6（事例演習①）
第5回	介護福祉の理念2（尊厳を支える介護）	第25回	介護福祉士の活動の場と役割7（事例演習②）
第6回	介護福祉の理念3（自立を支える介護）	第26回	介護福祉士に求められる役割とその養成1
第7回	介護福祉の歴史1（老人福祉法制定以前、1970年代）	第27回	介護福祉士に求められる役割とその養成2
第8回	介護福祉の歴史2（1980年代、1990年代）	第28回	介護福祉士を支える団体
第9回	介護福祉の歴史3（2000年以降）	第29回	第16回～第28回のまとめ
第10回	介護福祉士の倫理1（介護実践における倫理）	第30回	期末試験および解説
第11回	介護福祉士の倫理2（倫理的対応が必要な事例）	第31回	
第12回	介護福祉士の倫理3（事例演習）	第32回	
第13回	介護福祉士の倫理4（日本介護福祉士会の倫理綱領）	第33回	
第14回	第1回～第13回のまとめ	第34回	
第15回	中間試験および解説	第35回	
第16回	オリエンテーション／社会福祉士及び介護福祉士法1	第36回	
第17回	社会福祉士及び介護福祉士法2	第37回	
第18回	社会福祉士及び介護福祉士法3	第38回	
第19回	介護福祉士の活動の場と役割1（地域包括ケアシステム）	第39回	
第20回	介護福祉士の活動の場と役割2（介護予防）	第40回	

授業時間外の学習

【講義前】1.0時間

- ・UMUにて配布される講義資料を確認すること

【講義後】1.5時間

- ・講義で学習した範囲を自宅等で振り返り、復習すること
- ・小テストや介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること

成績評価

定期試験 90%

小テスト 10%

※小テストの開催回は都度お伝えします

使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座3

介護の基本Ⅰ【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集

中央法規出版株式会社/発行

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	介護の基本Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子	配当年次	1学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

福祉・介護の専門職として身につけておくべき倫理や尊厳、自立を支える意味を、理論と実践の両面から学ぶ。
介護を必要としている人を中心とするさまざまな「自立支援」について、専門職としての視点や期待される介護職としての基本的知識、スキルを習得する。

(内容)

1. 介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成し、倫理や専門性について理解を深める。
2. ICFの視点に基づくアセスメントや、リハビリテーション・介護予防について理解を深める。
3. 自立支援・介護予防の具体的な考え方や各種サービスの種類を知り、介護福祉士としての役割を学ぶ。

到達目標

介護福祉士を目指す学生として、介護福祉の理念や地域を基盤とする生活支援のしくみを理解する力を身につける。介護の基本Ⅱ①（1年後期）においては、以下の項目を授業目標とする。

1. 自立支援の意義とその特徴を知り、尊厳を支える介護について理解し、介護福祉士としての倫理性を養う。
2. 利用者を取り巻く状況を理解し、利用者の立場になって介護を展開できる専門職としての姿勢を身につける。
3. 自立支援、リハビリテーション、介護予防に携わる場面において必要とされる基礎的知識・技術を習得する。
4. ICFを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立支援の意義や方法を理解できる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション：1年後期の全体像「第4章：自立に向けた介護」
第2回	自立に向けた介護福祉1：「介護福祉における自立支援1」
第3回	自立に向けた介護福祉2：「介護福祉における自立支援2」
第4回	自立に向けた介護福祉3：「ICFの考え方1」
第5回	自立に向けた介護福祉4：「ICFの考え方2」
第6回	自立に向けた介護福祉5：「自立支援とリハビリテーション1」
第7回	自立に向けた介護福祉6：「自立支援とリハビリテーション2」
第8回	自立に向けた介護福祉7：「自立支援とリハビリテーション3」
第9回	自立に向けた介護福祉8：「自立支援と介護予防1」
第10回	自立に向けた介護福祉9：「自立支援と介護予防2」
第11回	自立に向けた介護福祉10：「自立支援と介護予防3」
第12回	自立と介護福祉：【事例演習を通して自立と予防を考える】
第13回	自立と介護福祉：【事例演習を通して自立と予防を考える】
第14回	自立と介護福祉：自立支援とは何か 総合まとめ
第15回	期末試験・解答解説

授業時間外の学習

【事前学習】：次回の授業範囲の教科書を読み、内容の把握をしておく。小テストは当該授業の理解度の確認のために実施する。なお、この小テストは指定された該当回から出題し、該当授業の冒頭におこなわれる。小テストの結果やその理解度に合わせ、解説や補足をおこなう。

【事後学習】：授業に合わせ提示する課題に取り組む。授業内容に関する質問は随時受け付けるため、積極的に聞きにくること。

成績評価

学期末におこなわれる定期試験の結果及び小テストをもって評価する。

定期試験（期末試験）・・・90％

小テスト・・・10％

【評価基準】S評価：100～90点 A評価：89～80点 B評価：79～70点 C評価：69～60点 F（不可）評価：59点以下

※本科目は2年次前期科目「介護の基本Ⅱ②」との総合評価のため、1年次「介護の基本①」との合算（1年次50％＋2年次50％）での評価（S～F）となる。

使用テキスト

最新・第2版 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 中央法規出版株式会社

授業項目に合わせ、解説資料をデータを配布する。

演習・グループワーク等で使用する資料は、プリントを配布する。

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	コミュニケーション技術Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	佐藤 真基子	配当年次	1学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

「コミュニケーション技術」は、利用者やその家族と支援関係の構築や、チームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う科目です。

第1章、第2章では、コミュニケーションの意義や援助関係の構築、傾聴、受容、言語的・非言語的コミュニケーションなど、介護を実践する際の基本となるコミュニケーションの考え方や技術を学びます。

到達目標

- ①コミュニケーション態度に関する基本技術が理解できる
- ②言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本が理解できる
- ③目的別のコミュニケーション技術が理解できる
- ④集団におけるコミュニケーション技術が理解できる

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	授業概要の説明/介護におけるコミュニケーションとは
第2回	介護におけるコミュニケーションの対象
第3回	援助関係とコミュニケーション① 援助関係の特徴
第4回	援助関係とコミュニケーション② 援助関係を構築するための原則
第5回	コミュニケーション態度に関する基本技術① 傾聴
第6回	コミュニケーション態度に関する基本技術② 受容と共感
第7回	コミュニケーション態度に関する基本技術③ コミュニケーションにおける距離
第8回	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本
第9回	目的別のコミュニケーション技術① 動機づけ
第10回	目的別のコミュニケーション技術② ものの見方に変化を生み出す技術
第11回	目的別のコミュニケーション技術③ 意思決定を支援するためのコミュニケーション
第12回	集団におけるコミュニケーション技術
第13回	様々な場面でのコミュニケーション技術①
第14回	様々な場面でのコミュニケーション技術②
第15回	筆記試験

授業時間外の学習

事前学習：前回の学びを振り返り、講義内容を把握しておく。

事後学習：授業内容を振り返り、学びを深める。新たな疑問点や課題を明確にしておく。

成績評価

定期試験の得点により評価する。

定期試験 90%

小テスト 10%

使用テキスト

- ・コミュニケーション技術（中央法規）
- ・配布資料

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	佐藤 真基子	配当年次	1学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

「コミュニケーション技術」は、利用者やその家族と支援関係の構築や、チームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う科目です。

第3章では、さまざまなコミュニケーション障害のある人の特性と支援の方法を学習します。第4章では、利用者の家族とどのように関わっていくかといった家族とのコミュニケーションについて学びます。そして第5章では、チーム力を高めるコミュニケーション方法等を学びます。

到達目標

- ①さまざまな障害がもたらす、コミュニケーション障害を理解する
- ②障害のある人を支援するコミュニケーション技術を理解する
- ③介護福祉職は家族と協働していく支援のパートナーであることを理解する
- ④家族の意向をどう表出し支援していくかを理解する
- ⑤介護福祉職チーム、多職種協働チームにおけるコミュニケーションの意義と目的を理解する

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	コミュニケーション障害への対応の基本
第2回	視覚障害のある人への支援
第3回	聴覚障害のある人への支援
第4回	構音障害のある人への支援
第5回	失語症の人への支援
第6回	認知症の人への支援
第7回	うつ病・抑うつ状態の人への支援
第8回	統合失調症の人への支援
第9回	知的障害のある人への支援
第10回	発達障害のある人への支援
第11回	高次脳機能障害・重症心身障害のある人への支援
第12回	チームのコミュニケーションとは/報告・連絡・相談の技術
第13回	会議・議事進行・説明の技術
第14回	情報の活用と管理のための技術
第15回	筆記試験

授業時間外の学習

事前学習：前回の学びを振り返り、講義内容を把握しておく。

事後学習：授業内容を振り返り、学びを深める。新たな疑問点や課題を明確にしておく。

成績評価

定期試験の得点により評価する。

定期試験 90%

小テスト 10%

使用テキスト

- ・コミュニケーション技術（中央法規）
- ・配布資料

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	生活支援技術Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	半田 仁、飯嶋 隆	配当年次	1学年、2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位
授業概要					
目的・ねらい：生活支援とは何かを理解して生活支援と介護過程の関連およびICFの視点を持ち、自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持排泄等の基本的な知識・技術を身に付ける。 尊厳の保持や自立の支援の視点を基に利用者主体の希望に沿った生活の継続ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を習得する学習とする。					
到達目標					
自立に向けた支援を実施するための生活支援技術の基本を習得する。 ICFの視点を生活支援に活用する意義を理解する。 根拠に基づいた介護実践を行うための生活支援技術の基本を習得する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容		回数	授業計画・内容	
第1回	オリエンテーション・生活支援の理解 6-P.2-36 講義		第21回	実技試験（車いす介助） 試験	
第2回	生活支援の理解 休息・睡眠 7-P.220-228 講義		第22回	実技試験（車いす介助） 試験	
第3回	休息・睡眠の介護（ボディメカニクス） 6-P.91-92 講義		第23回	身じたくの介護 整容 7-P.2-47 講義	
第4回	休息・睡眠の介護（ボディメカニクス） 演習		第24回	身じたくの介護 更衣・衣服の着脱① 7-P.48-59 講義	
第5回	休息・睡眠の介護（ベッドメイキング） 演習		第25回	身じたくの介護 更衣・衣服の着脱② 7-P.60-66 講義	
第6回	休息・睡眠の介護（ベッドメイキング） 演習		第26回	身じたくの介護 多職種との連携 7-P.67-72 講義	
第7回	休息・睡眠の介護（ベッドメイキング） 演習		第27回	身じたくの介護（洗顔・整髪・口腔ケア） 演習	
第8回	ベッドメイキング 実技 演習		第28回	身じたくの介護（更衣） 演習	
第9回	福祉用具の意義・種類 6-P.196-218 講義		第29回	介護ロボット体験（眠りSCAN）	
第10回	実技試験（ベッドメイキング） 試験		第30回	身じたくの介護（衣服の着脱介助） 演習	
第11回	実技試験（ベッドメイキング） 試験		第31回	身じたくの介護（ベッド上の衣服の着脱介助） 演習	
第12回	居住環境の整備 生活空間 6-P.38-63 講義		第32回	身じたく 実技 演習	
第13回	居住環境の整備 日常安全 6-P.64-82 講義		第33回	家事の介護 意義・目的、役割 6-P.220-254 講義	
第14回	移動の介護 6-P.83-88 講義		第34回	家事の介護 具体例 6-P.255-264 講義	
第15回	移乗の介護 6-P.89-188 講義		第35回	中間試験 筆記	
第16回	介護ロボット体験（サイバーダイン HAL） 演習		第36回	実技試験（身じたく） 試験	
第17回	移動の介護（体位変換・良肢位・歩行） 演習		第37回	実技試験（身じたく） 試験	
第18回	移乗の介護（車いす～ベッド） 演習		第38回	入浴・清潔保持の介護 入浴 7-P.108-127 講義	
第19回	車いす介助 実技 演習		第39回	入浴・清潔保持の介護 清潔保持 7-P.128-160 講義	
第20回	移動の介護 多職種との連携 6-P.189-194 講義		第40回	まとめ	
授業時間外の学習					
実技演習は「介護実習室の使用許可願書」を教員に提出して実習室で実施できる。					
成績評価					
中間試験・期末試験、実技試験にて総合的に評価する。 ①中間試験・期末試験 70％ ②実技試験 30％					
使用テキスト					
最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社 最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社					
担当教員の実務経験					
介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。					

科目名	生活支援技術Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	半田 仁、飯嶋 隆	配当年次	1学年、2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要
目的・ねらい：生活支援とは何かを理解して生活支援と介護過程の関連およびICFの視点を持ち、自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持排泄等の基本的な知識・技術を身に付ける。 尊厳の保持や自立の支援の視点を基に利用者主体の希望に沿った生活の継続ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を習得する学習とする。

到達目標
自立に向けた支援を実施するための生活支援技術の基本を習得する。 ICFの視点を生活支援に活用する意義を理解する。 根拠に基づいた介護実践を行うための生活支援技術の基本を習得する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第41回	排泄の介護（尿器、差しこみ便器の介助） 演習	第61回	実技試験（杖歩行） 試験
第42回	排泄の介護（陰部洗浄・おむつの介助） 演習	第62回	実技試験（杖歩行） 試験
第43回	排泄の介護（おむつの介助） 演習	第63回	災害時の介護 意義・目的、役割 6-P.280-285 講義
第44回	排泄の介護（陰部洗浄・おむつの介助） 演習	第64回	災害時の介護 具体例 6-P.286-306 講義
第45回	排泄の介護（おむつの介助） 演習	第65回	終末期の介護 意義、役割 7-P.256-283 講義
第46回	排泄の介護（ポータブルトイレの介助） 演習	第66回	終末期の介護 多職種との連携 7-P.284-291 講義
第47回	排泄 実技 演習	第67回	介護ロボット体験（介護業務②） 演習
第48回	実技試験（排泄） 試験	第68回	終末期の介護（苦痛の緩和） 演習
第49回	実技試験（排泄） 試験	第69回	終末期の介護（エンゼルケア） 演習
第50回	応急手当の基礎知識 6-P.266-277 講義	第70回	実技 演習
第51回	食事の介護 意義・目的 7-P.74-85 講義	第71回	総合演習（事例検討②） 講義
第52回	食事の介護 状況に応じた食事 7-P.85-106 講義	第72回	期末試験 筆記
第53回	食事の介護（誤嚥予防） 演習	第73回	実技試験 試験
第54回	食事の介護（食卓での介助） 演習	第74回	実技試験 試験
第55回	食事の介護（自助具の活用） 演習	第75回	総合演習（事例検討③） 講義
第56回	食事の介護（ベッド上での介助） 演習	第76回	総合演習（事例検討④） 講義
第57回	食事の介護（窒息時の対応） 演習	第77回	総合演習（事例検討⑤） 講義
第58回	介護ロボット体験（介護業務①） 演習	第78回	総合演習（事例検討⑥） 講義
第59回	杖歩行 実技 演習	第79回	まとめ
第60回	総合演習（事例検討①） 講義	第80回	まとめ

授業時間外の学習
実技演習は「介護実習室の使用許可願書」を教員に提出して実習室で実施できる。

成績評価
中間試験・期末試験、実技試験にて総合的に評価する。 ①中間試験・期末試験 70％ ②実技試験 30％

使用テキスト
最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社 最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社

担当教員の実務経験
介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	介護過程Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子	配当年次	1学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

介護福祉士の中核である「介護過程」の実践的展開に関する基本的なスキルを身につける。本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析をおこない、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を養う。

(内容)

1. 介護過程とは何か、なぜ介護過程を適切に展開する能力が求められているのかを理解する。
2. 専門知識・技術を根拠とした、科学的な思考過程が必要であることを理解する。
3. アセスメント・計画の立案・実施・評価のプロセスについて基本的な知識を体系的に理解する。
4. 尊厳や自立支援について考える力を身に付け、利用者への適切な支援の必要性を講義や事例を通して理解する。
5. 介護の実践的展開について、他の領域で学んだ専門的な知識と技術を統合し理解を深める。

到達目標

介護福祉士を目指す学生として、アセスメント・計画の立案・実施・評価等をおこなうプロセスを理解する。介護過程Ⅰにおいて、以下の項目を具体的な授業目標とする。

- ①介護過程の意義や方法、構成要素、目的を理解できる。
- ②介護過程を展開するうえで、チームアプローチの必要性やチームにおける介護福祉士の役割を理解できる。
- ③アセスメントを学習する中で、ICFシートの活用方法を理解し記述していくことができる。
- ④事例を通して、必要な情報や生活上の課題を見つけ出し記述することができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション：介護過程とは 意義・目的・全体像
第2回	介護過程の展開の基本的視点1：介護過程とICF（国際機能生活分類）
第3回	介護過程の展開の基本的視点2：介護過程の全体像 事例検討・研究の必要性
第4回	介護過程の理解1：介護過程の展開 目的・方法・視点・求められる思考の方法とは
第5回	介護過程の理解2：アセスメントの意義・方法 情報収集とは
第6回	介護過程の理解3：情報の解釈・関連づけ・統合化
第7回	介護過程の理解4：課題の明確化 アセスメントの視点・実際
第8回	介護過程の理解5：計画の立案 介護計画とは 目標の設定・優先順位
第9回	介護過程の理解6：計画の立案 支援内容・支援方法の決定 介護計画立案
第10回	介護過程の理解7：実施について 留意点 記録の種類と必要性
第11回	介護過程の理解8：評価について 意義と目的 方法 留意点
第12回	介護過程とチームアプローチ1：介護過程とケアマネジメントの関係性
第13回	介護過程とチームアプローチ2：チームアプローチにおける介護福祉士の役割
第14回	介護過程Ⅰの総合まとめ：展開の意義や考え方・方法について 試験対策
第15回	期末試験・解説

授業時間外の学習

事前学習：次回の授業範囲の教科書を読み、内容の把握をしておく。小テストは授業の理解度の確認のために実施する。第2回から第13回まで授業毎におこなわれる。 小テストの結果やその理解度、リアクションペーパーに合わせ、解説や補足をおこなう。

事後学習：講義内容を振り返り、自習・復習をおこなう。当該授業で実施した小テストは事後学習に活用すること。返却された小テストの振り返りは、学期末試験の予習にもつながるため積極的に取り組むこと。

成績評価

学期末におこなわれる定期試験及び授業内でおこなわれる小テストをもって評価する。

評価の割合は以下のとおりとする。

- ①定期試験（期末試験） 90%
- ②小テスト類 10%

使用テキスト

- ①最新 第2版 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版株式会社
- ②授業項目に合わせ、解説プリントや資料をデータ配布する。
- ③演習・グループワーク等で使用する資料は、プリントを配布する。

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	介護過程Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子	配当年次	1学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

介護過程の展開をより深く理解していく。個別のニーズを的確に把握し、計画的に実践・評価していく方法を身に付ける。

(内容)

1. アセスメント・計画の立案・実施・評価のプロセスについて知識を深め、適切な生活支援・介護サービスが提供できるよう、講義や事例検討を通して学んでいく。
2. 本人の望む生活の実現に向けた課題解決のための科学的思考過程が適切な介護の実践に必要であることを理解し、尊厳や自立支援における基本的な視点・思考を深める。
3. 事例演習を通して、利用者の支援における介護の実践的展開を理解し「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「介護の基本」等の領域で学ぶ専門的知識と技術を統合しながら考えていく力を身に付ける。

【備考】授業の理解度を確認するためには数回の小テストを実施する。小テストは授業冒頭におこなわれる。

到達目標

介護福祉士を目指す学生として、利用者の状況をアセスメントしていく力、介護計画を立案する力を身につける。また、その計画に基づく支援の実施と評価をおこなう一連のプロセスを理解し、介護過程を展開する力を養う。

介護過程Ⅱにおいては以下の項目を具体的な授業目標とする。

- ①介護過程Ⅰで習得した学びを活かし、事例を通して介護過程の展開ができる。
- ②介護過程の構成要素を理解し、事例を通して介護過程の実践的展開に関する基本的なスキルを身に付けることができる。
- ③事例を通して利用者の生活支援に必要な介護計画を立案し適切な介護サービスを提供できる力を養う。
- ④グループ演習や事例演習を通して専門職における多職種連携・チームケアの意義を理解できる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション：介護過程についての基礎的理解 1
第2回	介護過程についての基礎的理解 2
第3回	介護過程についての基礎的理解 3
第4回	介護過程の実践的展開 1：さまざまな情報収集方法を学ぶ
第5回	介護過程の実践的展開 2：事例に基づく情報収集の実施
第6回	介護過程の実践的展開 3：情報共有の重要性を学ぶ
第7回	アセスメントツールの活用 1：各項目の意義を学ぶ
第8回	アセスメントツールの活用 2：ツールとケアの関係性を知る
第9回	アセスメントツールの活用 3：ICFシートの活用意義
第10回	介護過程における課題分析 1：課題分析法
第11回	介護過程における課題分析 2：課題明確化
第12回	介護過程における課題分析 3：目標の設定
第13回	個別援助計画 1：介護計画立案のための視点とは
第14回	個別援助計画 2：介護計画立案の実際と留意点
第15回	個別援助計画 3：実施・評価とは
第16回	介護過程の実践的展開 1：実践的理解 情報収集
第17回	介護過程の実践的展開 2：目標・立案・実施
第18回	介護過程の実践的展開 3：再アセスメント・評価・チームアプローチ
第19回	介護過程の実践的展開 4：総まとめ 振り返り
第20回	後期末試験・解説

授業時間外の学習

【備考】講義の進捗状況、小テスト、提出物などから学生の理解度を判断し、講義内容を多少変更することがある。その際は、事前に告知又は掲示をおこなう。

【事前学習】次回の授業範囲の教科書を読み、内容の把握をしておく。小テストは当該授業の理解度の確認のために実施する。なお、テストは指定された該当回から出題し、該当授業の冒頭におこなわれる。小テストの結果やその理解度に合わせ、解説や補足をおこなう。

【事後学習】授業に合わせ提示される課題に取り組み。授業内容に関する質問は随時受け付ける。

成績評価

学期末におこなわれる定期試験の結果及び小テストをもって評価する。

定期試験（期末試験）・・・90%

小テスト・・・10%

【評価基準】S評価：100～90点 A評価：89～80点 B評価：79～70点 C評価：69～60点 F（不可）評価：59点以下

使用テキスト

- ①最新・第2版 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版株式会社
- ②授業項目に合わせレジュメ・資料をデータ等で配布し使用する。
- ③演習・グループワーク等で使用する資料は、プリントを配布する。

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	介護総合演習Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子	配当年次	1学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

養成校における施設実習の準備でもある当科目においては、各領域で学ぶ介護実践につなげていく力を養う。また、要介護者である個々の利用者について理解を深めることができる講義や演習などを展開する。学校で学んだことを実習先で実践でき、それぞれの力を発揮できる学習や演習をおこなっていく。

(内容)

1. 実習施設の概要について理解する。さまざまな施設・事業所の概要を学び、その種類・特徴・業務・連携を講義や演習を通して学習する。
2. 利用者の生活像や介護職の役割を学ぶことで実習へのイメージづくりができ、自身の目標や課題が明確にできる。

到達目標

介護福祉士を目指す学生として、介護実習の意義や必要性を学び、利用者を支援するうえで必要な知識・技術・情意を深めていく。実習前学習となる介護総合演習Ⅰにおいては、以下の項目を授業目標とする。

- ①多種多様なサービスが提供されている実習施設の概要と、そこで生活する利用者像について理解できる。
- ②介護福祉士としての基本的なコミュニケーション技法、観察技法、記録の記述ができる。
- ③介護福祉士として、他者理解に必要な態度を身に付けることができる。
- ④学習における関心や疑問を認識するとともに実習のねらいや内容を理解し自己目標や学習課題を明確にすることができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション：介護総合演習とは何か 学びの内容と位置づけ
第2回	介護実習の理解：介護総合演習の意義と目的 目標を持つことの大切さ
第3回	介護実習の理解2：介護実習の種類 実習内容の理解と視点
第4回	実習施設の理解1：実習先の特徴、実習先での学び 実習施設の全体像
第5回	実習施設の理解2：訪問・通所・通所リハ・特養・老健について
第6回	実習施設の理解3：養護老人ホーム・グループホーム・小規模多機能施設 他
第7回	介護実習準備について1：実習前の準備、実習目標の立て方 必要な記録類
第8回	介護実習準備について2：実習中の学び 態度・行動目標・観察と考察 その他
第9回	介護実習準備について3：実習後の学び 実習体験の総まとめ 記録類の整理
第10回	実習記録について1：根拠を踏まえた実習記録書の記入方法1
第11回	実習記録について2：根拠を踏まえた実習記録書の記入方法2
第12回	実習記録について3：根拠を踏まえた実習記録書の記入方法3
第13回	実習記録について4：実習記録書の記入の実際、プロセスレコードとは何か
第14回	実習目標の理解：総まとめ 実習目標の意義と目的
第15回	期末試験・解答解説

授業時間外の学習

【事前学習】次回の授業範囲の教科書を読み、内容の把握をしておく。小テストは当該授業の理解度の確認のために実施する。
なお、テストは指定された該当回から出題し、該当授業の冒頭におこなわれる。小テストの結果やその理解度に合わせ、解説や補足をおこなう
また授業内演習として、実習本番を想定した記述ワークを実施し、提出内容や習熟度に合わせ解説や補足をおこなう。

【事後学習】講義内容を振り返り、自習・復習をおこなうこと。授業に合わせ提示する資料や課題を復習に活用すること

成績評価

学期末におこなわれる定期試験及び授業内でおこなわれる小テストをもって評価する。

評価の割合は以下のとおりとする。

- ①定期試験（期末試験） 90%
- ②小テスト類 10%

使用テキスト

- ①最新・第2版 介護福祉士養成講座10：介護総合演習・介護実習 中央法規出版株式会社
- ②授業項目に合わせ、解説プリントや資料をデータ配布する。
- ③演習・グループワーク等で使用する場合は、プリントを配布する。

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	介護総合演習Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子	配当年次	1学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

(1回～7回：第1段階実習前指導)
 1、「実習の手引き」や「実習ファイル」の準備を通し、実習の目的・目標・意義を明確にする。
 2、実習現場の概要を把握し、利用者の生活の場について理解を深める。
 3、実習記録の記入を通して、記録の必要性を理解する。
 4、同職種や他職種との連携・協働を学び、介護福祉職としての役割を理解する。
 5、個々の利用者に関わるための、コミュニケーション技術や基礎的な生活支援技術の能力を習得する。

(8回～11回：実習中・帰校日)
 実習現場の振り返りをする。1回目見学日・11月15日(㊟・㊠)、2回目見学日・11月22日(㊟・㊠)

到達目標

介護福祉士を目指す学生として、実習現場の概要を理解し、生活支援技術の実践やコミュニケーション技術の活用を通して、個々の利用者に関わることで、個別ケアの必要性を理解する。この実習を通して人間関係の形成過程を体験的に学んでいく。

- ① 介護実践に必要な知識や技術の統合をおこなうとともに、介護観を形成し専門職としての姿勢を養う。
- ② 様々な生活支援の場面に必要とされる基礎的な知識・技術を習得する。
- ③ 対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援をおこなう能力・技術を習得する。
- ④ 地域で暮らす高齢者や障害を持つ人が各種サービスを利用しながら、その人らしさを維持し生活する状況について理解する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	第1段階実習についての全体説明 施設実習用学生カード・同意書・誓約書についての説明と記入
第2回	実習の手引き読み合わせ、介護実習ファイルの配布・説明（各書類の取り扱い方法）
第3回	第1段階実習目標の書き方 オリエンテーション・電話のかけ方と時期 学生の心得
第4回	事前準備が必要な書類等の確認（日々の目標、巡回時の確認事項、オリエンテーション内容の確認など）
第5回	各科目での学習の振り返り1（毎日の記録の書き方・プロセスレコードの書き方の確認も含む）
第6回	各科目での学習の振り返り2（利用者理解、施設実習における態度・技術の確認、説明）
第7回	実習前の総括（介護実習ファイルの確認、各種書類の確認、介護実習を行うにあたっての心構え）
第8回	介護実習帰校日1（介護実習の体験報告・情報交換、介護実習における関係書類の確認）
第9回	介護実習帰校日1（介護実習の体験報告・情報交換、介護実習における関係書類の確認）
第10回	介護実習帰校日2（介護実習の体験報告・情報交換、介護実習における関係書類の確認）
第11回	介護実習帰校日2（介護実習の体験報告・情報交換、介護実習における関係書類の確認）
第12回	介護実習のまとめ1（介護実習ファイルの整理・確認、介護実習機関への礼状の作成と送付など）
第13回	介護実習のまとめ2（介護実習ファイルの整理・確認、実習報告会準備、情報の共有など）
第14回	実習報告会
第15回	実習報告会

授業時間外の学習

【事前学習】教員から指示された次回までにおこなっておく課題や提出物を準備すること。わからない時は質問に来ること。配布された資料・ファイルの内容物、記録物はすべて重要な書類である。紛失・破損しないよう慎重に取り扱うこと

【事後学習】授業・演習内容に合わせ提示する課題（記述物や準備物品：範囲は事前に告知される）に取り組む。決められた期日までに巡回担当教員に提出し指導を受ける必要がある。

成績評価

※本科目は実習のための準備となるため、定期試験はない。よって以下の内容で評価する。

- ①介護実習評価・提出書類・授業態度（取り組む姿勢・提出物・使用物品の準備、ファイルの整理整頓など）の結果を総合的に評価する。
 - ②介護実習評価・・・評価全体の70%
 - ③記録物・授業態度・出欠状況・実習報告会などの総合平常点・・・30%
- なお、未提出や忘れ物、達成度は評価に反映される。紛失についても厳重注意となる。

使用テキスト

- ①最新・第2版 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版株式会社
- ②実習の手引き（2年間通年保管となる）
- ③実習ファイル（各自それぞれが管理し整理する。実習後、整理したファイルは施設に送付し評価される）

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	こころとからだのしくみⅠ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	谷内 美和子	配当年次	1学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

人体の構造や機能を理解し利用者の健康、命を踏まえた支援の根拠を学ぶ。

到達目標

- ・人体の構造や働きを理解を深め、日常生活行動との関連付けができる。
- ・介護福祉士として利用者の健康、命を踏まえた生活支援を実施するために、その基本知識が理解できる。”

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション・「健康」とは何か：健康の定義・人間の欲求
第2回	からだの成り立ちの理解① 身体の形と臓器の場の理解 身体の各部の名称
第3回	からだの成り立ちの理解② 全身の骨格 骨の働き
第4回	からだの成り立ちの理解③ 全身の筋肉 関節の動き
第5回	生命活動を調整するしくみ ホメオスタシス 自律神経
第6回	脳のつくりと働きの理解① 中枢神経
第7回	脳のつくりと働きの理解② 末梢神経
第8回	こころのしくみを理解する① 認知のしくみ（記憶・学習・思考）欲求の段階層
第9回	こころのしくみを理解する② こころの構造 防衛機制
第10回	循環器の構造と機能
第11回	呼吸器の構造と機能
第12回	泌尿器/腎臓の構造と機能
第13回	消化器の構造と機能①食べる仕組み
第14回	消化器の構造と機能②肝臓・膵臓・胆のう
第15回	内分泌の構造と機能
第16回	感覚器の構造と機能① （眼・耳）
第17回	感覚器の構造と機能② （皮膚）
第18回	血液の成り立ちと機能
第19回	免疫機能・試験対策
第20回	学期末試験60分 解答解説30分

授業時間外の学習

事後学習：授業の板書内容の確認、覚えておくよう提示した内容の復習

毎回の授業内容を理解できているか、確認問題を解いておく。

成績評価

- 1、定期試験90%
- 2、確認テスト10%

使用テキスト

中央法規 「こころとからだのしくみ」 成美堂出版「人体解剖図」

担当教員の実務経験

医療施設等において看護師としての実務経験を有する。

科目名	こころとからだのしくみⅡ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	谷内 美和子	配当年次	1学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位
授業概要					
各器官における代表的疾患や障害を理解する。こころとからだのしくみⅠからの生理解剖の復習を加えながら、生活支援の場面に応じた知識を深める。生活障害のメカニズムについての基礎的知識を教科書、事例などを通して学ぶ。					
到達目標					
・生活支援の場面に応じた心身の機能低下や障害を理解する。 ・心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイントや判断力の基盤となる知識を身につける。医療職との連携について理解する。 ・身体的な機能を理解することにより支援の科学的根拠を考える力を養う。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション・移動のしくみ				
第2回	心身の機能低下が移動に及ぼす影響：①運動器疾患（骨粗鬆症・大腿骨髁部骨折・変形性関節症）				
第3回	変化の気づきと対応：褥瘡・②脳血管疾患（脳出血・脳梗塞・クモ膜下出血・パーキンソン病）				
第4回	身じたくのしくみ：感覚器について解剖・生理の復習				
第5回	心身の機能低下が移動に及ぼす影響：③感覚器疾患（白内障・緑内障・網膜疾患）				
第6回	心身の機能低下が移動に及ぼす影響：④感覚器疾患（伝音声難聴・感音性難聴）				
第7回	消化器の解剖・生理の復習食事のしくみ：食べるしくみ・嚥下機能				
第8回	心身の機能低下が食事に及ぼす影響：嚥下障害・球麻痺				
第9回	変化の気づきと対応：医療職との連携⑤消化器疾患				
第10回	入浴・清潔保持のしくみ：皮膚・循環について（入浴の生理作用・効果）				
第11回	心身の機能低下が入浴に及ぼす影響⑥皮膚疾患（老人性皮膚そう痒症・白癬菌・疥癬虫・褥瘡など）				
第12回	入浴による変化と気づき：医療職との連携：高血圧・ヒートショックなど				
第13回	排泄のしくみ：排尿のメカニズム・排便のメカニズム解剖・生理の復習				
第14回	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響：排尿障害				
第15回	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響：排便障害				
第16回	変化の気づきと対応：医療職との連携				
第17回	休息・睡眠のしくみ				
第18回	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響：睡眠を妨げる主な疾患				
第19回	変化の気づきと対応：医療職との連携期末試験対策				
第20回	期末試験（60分）解答解説(30分)				
授業時間外の学習					
前回内容の確認テストを行うため、授業での内容の復習。「こころとからだのしくみⅠ」の解剖、生理を復習しておくことで理解度が増すので確認しておくこと。					
成績評価					
期末試験90％・確認テスト10％					
使用テキスト					
中央法規出版「こころとからだのしくみ」・成美堂出版「人体解剖図」					
担当教員の実務経験					
医療施設等において看護師としての実務経験を有する。					

科目名	こころとからだのしくみⅣ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	谷内 美和子	配当年次	1学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

- 1、介護福祉士として緊急時・終末期の対応の必要性を理解する。
- 2、人体の構造を理解し、観察技法を応用させた適切な緊急時・終末期の対応法を学ぶ。
- 3、利用者、家族の精神的変化を理解した上で、その対応について考え、理解する。
- 4、対応についての根拠を理解する。
- 5、演習を通してより具体的な状況を体験する。

到達目標

- 1、介護福祉士として緊急時や終末期における心身状態の変化を理解し、適切な対応法を学ぶ。
- 2、緊急時・終末期における利用者、家族の精神的な変化を理解する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	普通救命救急実技演習
第2回	普通救命救急実技演習
第3回	普通救命救急実技演習
第4回	“緊急時の意義・目的について 想定される事故と予防の視点”
第5回	救急蘇生法の実際（AEDを用いた心肺蘇生の流れ）
第6回	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方・心の理解
第7回	終末期から危篤状態、死後の身体の理解
第8回	医療職との連携
第9回	エンゼルケアの実際（デモンストレーション）
第10回	期末試験(試験60分・解答解説30分)
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

特になし

成績評価

- 1、定期試験90%
- 2、授業態度（普通救命講習会10%）

使用テキスト

こころとからだのしくみ・医療的ケア: 中央法規出版
生活支援技術Ⅰ・Ⅱの教科書
救命人形・AED・

担当教員の実務経験

医療施設等において看護師としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	発達と老化の理解 I	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	佐藤 真基子	配当年次	1学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

「発達と老化の理解」は、人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を学習する科目です。

1章では、成長・発達の考え方、成長・発達の原則や影響する要因など基礎的な知識を学びます。2章では、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題および特徴的な疾病について学びます。3章では、老年期の特徴と発達課題について学びます。

到達目標

- ①成長・発達の考え方、成長・発達の原則や影響する要因など基礎的な知識が理解できる
- ②ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題および特徴的な疾病が理解できる
- ③老年期の特徴と発達課題が理解できる

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	授業概要の説明/成長・発達の考え方
第2回	成長・発達の原則・法則
第3回	成長・発達に影響する要因①
第4回	成長・発達に影響する要因②
第5回	発達段階と発達課題① ピアジェの認知発達理論
第6回	発達段階と発達課題② エリクソン・ハヴィーガーストの発達段階説
第7回	身体的機能の成長と発達
第8回	心理的機能の成長と発達
第9回	社会的機能の発達①
第10回	社会的機能の発達②
第11回	老年期の定義
第12回	老化とは
第13回	老年期の発達課題①
第14回	老年期の発達課題②/老年期をめぐる今日的課題
第15回	筆記試験

授業時間外の学習

事前学習：前回の学びを振り返り、講義内容を把握しておく。

事後学習：授業内容を振り返り、学びを深める。新たな疑問点や課題を明確にしておく。

成績評価

定期試験の得点により評価する。

定期試験 90%

小テスト 10%

使用テキスト

- ・発達と老化の理解（中央法規）
- ・配布資料

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	認知症の理解 I	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	西嶋 恵子	配当年次	1学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

認知症の人の心理や身体機能、社会的な側面に関する基礎的な知識を理解し、講義や演習を通じて認知症ケアについて学びを深める。

到達目標

①認知症の基礎的理解や認知症の人の思いを理解することで、介護福祉士として認知症ケアを適切に実践する心を養うことができる。
②認知症の原因となる疾病及び認知症の種類や特徴を学び、中核症状やBPSDを理解することができる。また、BPSDの出現が生活する中の環境にあることを知ることができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション 授業の全体像
第2回	第1章 認知症の基礎的理解 認知症のある高齢者の現状と今後 認知症とは何か
第3回	脳のしくみ 認知症の人の心理
第4回	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防 中核症状の理解 生活障害の理解
第5回	BPSDの理解
第6回	認知症の診断と重症度
第7回	認知症の原因疾患と症状・生活障害①
第8回	認知症の原因疾患と症状・生活障害② 小テスト
第9回	認知症の治療薬 認知症の予防
第10回	第3章 認知症ケアの歴史と理念 認知症の人を取り巻く状況
第11回	認知症ケアの理念と視点
第12回	認知症当事者の視点からみえるもの
第13回	認知症の人の気持ち 認知症の人ができるだけ自分でできるように（演習）
第14回	試験対策・まとめ
第15回	期末試験・解説

授業時間外の学習

事前学習：次回の授業範囲の教科書のページを読み、内容の把握をしておく。授業の最後に練習問題（国家試験過去問）が実施されることもある。

事後学習：講義内容を振り返り、自習・復習をする。

成績評価

定期試験（期末試験）・・・90％ 小テスト・・・10％

使用テキスト

最新 第2版 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規出版株式会社

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	認知症の理解Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	西嶋 恵子	配当年次	1学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

講義や演習を通じて、認知症の人への理解を深めていく。認知症の人を中心に、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて、フォーマル、インフォーマルな資源活用ができるよう理解を深める。

到達目標

- ①認知症の人へのさまざまなアプローチを理解することにより、介護福祉士として適切な認知症ケアを実践することができる。
- ②認知症の人を地域で支える仕組みや多職種連携・協働による支援について理解することができる。
- ③認知症の人を支える家族の課題について理解することができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	第4章 認知症の実際 パーソンセンタードケア
第2回	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール①
第3回	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール②
第4回	認知症の人とのコミュニケーション
第5回	認知症の人へのケア
第6回	認知症の人へのさまざまなアプローチ
第7回	認知症の人の終末期医療と介護
第8回	環境づくり 小テスト
第9回	第5章 介護者支援 家族への支援
第10回	介護福祉職への支援
第11回	第6章 認知症の人の地域生活支援 地域包括ケアシステムにおける認知症ケア
第12回	多職種連携と協働①
第13回	多職種連携と協働②
第14回	試験対策・まとめ
第15回	期末試験・解説

授業時間外の学習

事前学習：次の授業範囲の教科書ページを読み、内容の把握をしておく。授業の最後に練習問題（国家試験過去問）が実施されることもある。
事後学習：講義内容を振り返り、自習・復習をする。

成績評価

定期試験（期末試験）・・・90％ 小テスト・・・10％

使用テキスト

最新 第2版 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 中央法規出版株式会社

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	障害の理解Ⅰ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	川村 仁美	配当年次	1学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

- 「障害の理解Ⅰ」では、障害がある人の生活を支えるという観点から以下を学習の目的とする。
- (1) 心身の構造や機能及び課題について理解し、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。
 - (2) 医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。
 - (3) 本人と家族が地域で自立生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習をねらいとする。

到達目標

- ・障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できるようにする。
- ・医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できるようにする。
- ・ライフステージや障害特性を踏まえ、QOLを高める支援につなぐことができるようにする。
- ・障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できるようにする。
- ・障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができるようにする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション／障害の概念（障害のとらえ方、障害者の定義）
第2回	障害の概念（ICIDH、ICF）／障害のある人の心理
第3回	障害者福祉の基本理念
第4回	障害者福祉に関連する制度／障害者福祉制度と介護保険制度
第5回	肢体不自由（運動機能障害）
第6回	視覚障害および聴覚・言語障害
第7回	重複障害および重症心身障害
第8回	知的障害
第9回	精神障害
第10回	高次脳機能障害
第11回	発達障害
第12回	難病
第13回	地域のサポート体制／チームアプローチ
第14回	家族への支援（家族への支援、家族介護力の評価・介護負担の軽減）
第15回	期末試験および解説
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

- 【講義前】1.0時間
- ・UMUにて配布される講義資料を確認すること
- 【講義後】1.5時間
- ・講義で学習した範囲を自宅等で振り返り、復習すること
 - ・小テストや介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること

成績評価

定期試験 90%
小テスト 10%

※小テストの開催回については都度お伝えします

使用テキスト

最新 介護福祉士養成講座14
障害の理解【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集
中央法規出版株式会社/発行

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	人間の理解Ⅲ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小林 桂子	配当年次	2学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

介護福祉士は、介護職のグループの中での中核的な役割やリーダー下で専門職としての役割を発揮することが求められている。よって、この授業では、介護実践においてマネジメントするために必要な「介護実践におけるチームマネジメントの意義」「ケアを展開するためのチームマネジメント」「人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント」「組織の目標達成のためのチームマネジメント」等を中心に学習する。

チームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を習得することを目指す。

これらの授業を通して、自身のキャリアデザインを考える機会とする。

到達目標

＜介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理＞

- ①組織の機能や構造について説明できる。
- ②ケアを展開するために必要なチームの構成や役割について考えることができる。

＜人材の育成や活用などの人材管理＞

- ③チームでケアを展開するために必要な、様々な実践力について理解できる。
- ④実践力を高めるために必要な、人材育成・開発のしくみ（OJT、OFF-JT、SV等）・方法について説明できる。
- ⑤介護福祉士の多様なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	ヒューマンサービスとしての介護サービス
第2回	介護現場で求められるチームマネジメント
第3回	介護実践におけるチームマネジメントへの取り組み
第4回	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み
第5回	チームでケアを展開するためのマネジメント
第6回	チームの力を最大化するためのマネジメント①
第7回	チームの力を最大化するためのマネジメント②
第8回	介護福祉職のキャリアと求められる実践力
第9回	介護福祉職としてのキャリアデザイン
第10回	介護福祉職のキャリア支援・開発
第11回	自己研鑽に必要な姿勢
第12回	介護サービスを支える組織の構造
第13回	介護サービスを支える組織の機能と役割
第14回	介護サービスを支える組織の管理
第15回	期末試験実施・解答解説
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

事前学習：テキストに目を通してくること（該当ページは授業内にて指示）

事後学習：授業内容の理解度をはかるため、必要に応じて確認テストを実施（実施については事前に授業内にて指示）

成績評価

期末試験90% 確認テスト10% において評価する

講義の他、学習内容を深めるためにグループワークを行う
積極的に授業に参加することを期待する

使用テキスト

テキスト：最新・介護福祉士養成講座第1巻「人間の理解」中央法規
資料：随時ワークシートを配布

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	介護の基本Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小菅 真理子	配当年次	2学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

介護福祉を取り巻く状況の理解と、福祉・介護の専門職としての能力と態度を養うことの意味を、理論と実践の両面から学ぶ。介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、フォーマル及びインフォーマルな支援、地域を基盤とした生活の継続性を支える地域連携の仕組みを講義・演習を通して理解する。

（内容）

1. 介護を必要とする人を中心とするさまざまな介護サービスの特性について講義や演習で理解を深める。
2. 高齢者や障害を持つ人の生活全般を理解し、自立・社会参加・地域活動について講義や演習で理解を深める。
3. 介護サービスとその提供の場の特徴を知り、介護福祉士の役割を理解する。
4. 授業理解度の確認のための小テストや練習問題を実施する。これらのテストは定期試験や国家試験の対策となる。

到達目標

介護福祉の基本理念を踏まえ、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解していく。介護の基本Ⅱ（2年次）前期では以下の項目を授業目標とする。

1. その人らしい生活を支援する専門職としての基本的な考え方や姿勢を学ぶことで、介護の専門職としての基本的な視点や介護サービスの在り方、役割を理解することができる。
2. 介護の意義、生活支援の基本的視点、介護サービスの特性について理解を深め、利用者の立場になれる専門職としての姿勢を身に付ける。
3. 利用者を取り巻く社会環境を知り、生活の個性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	介護福祉を必要とする人の理解1：私たちの生活の理解 オリエンテーション
第2回	介護福祉を必要とする人の理解2：生活にとっての必要な要素とその特性とは
第3回	介護福祉を必要とする人の理解3：事例から考える高齢者の暮らし
第4回	介護福祉を必要とする人の理解4：事例から考える障害者の暮らし
第5回	介護福祉を必要とする人の理解5：その人らしさと生活ニーズ
第6回	介護福祉を必要とする人の理解6：生活のしづらさを解消する視点とは
第7回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ1：高齢者のフォーマルサービス
第8回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ2：障害者のフォーマルサービス
第9回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ3：インフォーマルサービスとは
第10回	グループワーク1：【フィールドワークで知るチームケアの視点】
第11回	グループワーク2：【フィールドワークで知るチームケアの視点】
第12回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ4：地域連携（前編）
第13回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ5：地域連携（後編）
第14回	介護を必要とする人の生活を支援すること：総まとめ・試験対策
第15回	期末試験・解答解説

授業時間外の学習

事前学習：次回の授業範囲の教科書のページを読み、内容の把握をしておく。小テストは授業の理解度のためにおこなう。出題内容の事前解説をおこなった上で当該授業の最後に実施となる。

事後学習：講義内容を振り返り、自習・復習をおこなう。また、当該授業で実施した小テストは事後学習に活用すること。

その他・授業内で不定期に実施する練習問題は、介護福祉士国家試験対策となる。積極的に取り組むこと。また、小テストの振り返りは

成績評価

各種テスト、期末試験にて評価する。

- ①定期試験（期末試験） 90%
②小テスト類 10%

※ただし本科目は1年次の「介護の基本Ⅱ」との総合評価のため、1年次の評価方法との合算（1年次50%＋2年次50%）となる。1年次の成績評価については当時のシラバスを参照すること

使用テキスト

最新 第2版 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規出版
授業項目に合わせレジュメ・資料を配布し使用する。

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	介護の基本Ⅲ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	西嶋 恵子	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

前期：介護におけるリスクマネジメントの必要性や、安全の確保のための基礎的な知識や事故発生時の対応を理解し、介護職員間や他職種との連携が求められる介護福祉士の役割について、講義や演習を通じて学びを深める。

後期：介護現場において、多職種との連携が求められる介護福祉士の役割について、講義や演習で理解を深める。また、対人援助サービスにおけるチームアプローチの基本や、同職種・他職種との連携の必要性を学習する。

到達目標

介護福祉士としての職務責任の基本を学び、多職種や地域との連携に対する職場での実践的な対応や、行動様式を身につける。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション：授業の全体像	第21回	保健・医療・福祉職の役割と機能 2
第2回	介護における安全の確保	第22回	多職種連携・協働の実際 1
第3回	リスクマネジメントとは何か 1	第23回	多職種連携・協働の実際 2 確認テスト
第4回	リスクマネジメントとは何か 2	第24回	健康管理の意義と目的 1
第5回	リスクマネジメントとは何か 3	第25回	健康管理の意義と目的 2
第6回	リスクマネジメントとは何か 4	第26回	こころの健康管理 1
第7回	リスクマネジメントとは何か 5	第27回	こころの健康管理 2
第8回	リスクマネジメントとは何か 6 確認テスト	第28回	身体の健康管理
第9回	感染症対策 1	第29回	労働環境の整備 試験対策・まとめ
第10回	感染症対策 2	第30回	後期末試験・解説
第11回	感染症対策 3	第31回	
第12回	感染症対策 4	第32回	
第13回	感染症対策 5	第33回	
第14回	感染症対策 6 試験対策・まとめ	第34回	
第15回	前期末試験・解説	第35回	
第16回	多職種連携・協働の必要性 1	第36回	
第17回	多職種連携・協働の必要性 2	第37回	
第18回	多職種連携・協働に求められる能力 1	第38回	
第19回	多職種連携・協働に求められる能力 2	第39回	
第20回	保健・医療・福祉職の役割と機能 1	第40回	

授業時間外の学習

事前学習：次の授業範囲の教科書のページを読み、内容の把握をしておく。授業の最後に練習問題（国家試験過去問）が実施されることもある。また、該当回に確認テストを実施する。確認テストは事前に内容が告知され、学習の理解度や実力を確認するために実施される。
事後学習：講義内容を振り返り、自習・復習をする。練習問題や確認テストの振り返りは期末試験の予習・学習にもつながる。

成績評価

前期・後期に行われる定期試験、確認テストの結果をもって評価する（前期・後期の試験結果を合算し2で割った点数が基準となる）
定期試験（期末試験）・・・90％ 確認テスト・・・10％

使用テキスト

最新 第2版 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規出版株式会社
授業項目に合わせレジュメ・資料を配布し使用する。

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	生活支援技術 I	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	松橋 由紀美、黒葛原 廣子	配当年次	2学年	開講時期	前期、後期
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

（前期）各栄養素が身体の中でどのように代謝されるかを知ると共に、調理実習では食品衛生を理解し、安全で美味しい調理方法を身に付ける。また個々の状態を理解した上で支援ができるように、食べる人に合わせた献立作成と調理方法を学ぶ。そして病態や身体状況に合わせ栄養改善ができることも目指す。

講義では基礎栄養学、疾病にあわせた食事を学び、実習では調理技術の向上を目指して授業を進める。

（後期）健康的で文化的な生活を営む上で、被服や住居・環境は重要な役割を持っている。介護福祉士として利用者の尊厳保持とその人らしい生活を支える立場であることを踏まえ、生活支援の場において身体機能の低下などに適切に対処する上で、利用者の生きがいとなる豊かな衣生活や、快適な住生活の提唱及び問題点に対する適切な対応・サポートができるよう実践的な生活支援能力の習得と、技術の向上を目指す。

到達目標

（前期）食べる人に合わせた食事を学ぶことを通して、生活の向上を図る支援ができるような知識を習得する。また、栄養知識の基礎を学習することによって、国家試験に対応できるようにする。

（後期）

- 安全で快適な居住生活環境に関する基礎知識と技術を習得し、身体状況に応じた適切な支援ができる力を養う。
- 衣環境・着装及び衣服管理に関する基礎知識と技術を習得し、個に応じてその人らしい生活を踏まえた支援ができる力を養う。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	実習 調理室の使い方 調理の基本	第21回	講義 第5章 自立に向けた家事の介護 自立した家事復習 家事の重要性、生活援助の理解
第2回	講義 栄養学の基礎知識	第22回	講義 第5章 自立に向けた家事の介護 被服整理、被服管理の知識と理解復習
第3回	調理実習 栄養価の高い食事の調理	第23回	講義 第5章 自立に向けた家事の介護 家庭経営 家計管理復習
第4回	調理実習 栄養価の高い食事の調理	第24回	講義 要点まとめ
第5回	調理実習 腎臓病の食事の調理	第25回	期末試験振り返り
第6回	調理実習 腎臓病の食事の調理	第26回	演習 第5章 自立に向けた家事の介護 被服生活の基本知識・技術 基礎 基礎技術の確認
第7回	調理実習 嚥下しやすい食事の調理	第27回	演習 第5章 自立に向けた家事の介護 被服生活の基本知識・技術 基礎 基礎技術と応用 1
第8回	調理実習 嚥下しやすい食事の調理	第28回	演習 第5章 自立に向けた家事の介護 被服生活の基本知識・技術 基礎 基礎技術と応用 2
第9回	講義 栄養学の基礎知識の重要ポイントの確認・復習	第29回	演習 第5章 自立に向けた家事の介護 被服生活の基本知識・技術 基礎 基礎技術と応用 3
第10回	講義 栄養学の基礎知識の重要ポイントの確認・復習	第30回	演習 第5章 自立に向けた家事の介護 被服生活の基本知識・技術 基礎 基礎技術と応用 4
第11回	講義 病態別食事の重要ポイントの確認・復習・演習	第31回	
第12回	講義 病態別食事の重要ポイントの確認・復習・演習	第32回	
第13回	講義 高齢者・病態別の食事・献立作成の演習・発表	第33回	
第14回	講義 高齢者・病態別の食事・献立作成の演習・発表	第34回	
第15回	期末試験	第35回	
第16回	講義 人と住生活、衣生活 人の生活基盤と日本の住まい・環境、被服と社会生活	第36回	
第17回	講義 第2章 居住環境の整備 住まいの役割と機能復習 生活空間の整備と留意点の理解	第37回	
第18回	講義 第2章 居住環境の整備 快適な室内環境復習 整備上の基本的事項の理解	第38回	
第19回	講義 第2章 居住環境の整備 安全にくらすための生活環境の理解復習	第39回	
第20回	講義 第2章 居住環境の整備 居住環境の整備における多職種との連携復習	第40回	

授業時間外の学習

（前期）なし

（後期）各授業の前に教科書を読み、概要を確認しておく。

成績評価

（前期）実技「調理実習報告書」「講義報告書」内容と提出、小テスト 30%
筆記試験 70%

（後期） 期末試験 90% 小テスト 10%

使用テキスト

（前期）実習時に毎回レシピ、資料を配布する。講義時は生活支援技術 I テキストを基にした資料を配布する。

（後期）最新 介護福祉養成講座 6 生活支援技術 I 第2版
（教材として 住居、被服 関連資料 ワークシート 使用予定）

担当教員の実務経験

管理栄養士としての実務経験を有する。

科目名	生活支援技術Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	半田 仁、飯嶋 隆	配当年次	1学年、2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位
授業概要					
1、「生活支援技術」は、尊厳の保持・自立支援・生活の豊かさの観点から、以下の学習とする。 ①本人主体の生活を「している活動」ととらえる。 ②福祉用具を含めた環境の工夫から「できる活動」をふやす。 ③できないところの援助を考える。 生活支援技術Ⅱでは、以下のねらいとする。 2、エンパワメントを引き出し、本人主体の生活を地域で継続するためにICFの視点に基づいた介護過程の展開実践方法を理解する。					
到達目標					
・障害や疾病がある人について、医学的・心理的側面から理解するとともに介護福祉士が行う生活支援の意義を考えることができる。 ・ICFの視点を生活支援に活かすことの意味を理解し、根拠に基づいた適切な技術を理解する。 ・対象となる本人の状態・状況に応じた生活支援技術の知識・技術を学び、自立に向けた生活支援を考えることができる。 ・生活支援技術Ⅱで習得した学びを活かし、福祉用具・環境についての知識・技術を理解する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容		回数	授業計画・内容	
第1回	オリエンテーション、生活支援技術とリハビリ介護		第21回		
第2回	食事のリハビリ介護と福祉用具		第22回		
第3回	移動のリハビリ介護と福祉用具		第23回		
第4回	移乗のリハビリ介護と福祉用具		第24回		
第5回	入浴のリハビリ介護と福祉用具		第25回		
第6回	リハビリ介護における多職種との連携		第26回		
第7回	更衣のリハビリ介護と福祉用具		第27回		
第8回	整容のリハビリ介護と福祉用具		第28回		
第9回	排泄のリハビリ介護と福祉用具		第29回		
第10回	レクリエーションの視点を含めたりハビリ介護と福祉用具		第30回		
第11回	中間試験（筆記試験）（60分試験 30分解説）		第31回		
第12回	人の姿勢・動きのメカニズム 第1回～第10回のまとめ		第32回		
第13回	卒業実技試験事例説明		第33回		
第14回	卒業実技試験事例説明		第34回		
第15回	卒業実技試験事例説明		第35回		
第16回	演習		第36回		
第17回	演習		第37回		
第18回	演習		第38回		
第19回	期末試験（卒業実技試験）		第39回		
第20回	期末試験（卒業実技試験）		第40回		
授業時間外の学習					
【講義後】					
・講義で学習した範囲に出てきた新しい専門用語について復習すること ・介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること					
成績評価					
筆記試験及び実技試験 100%					
①中間試験・学期末試験 70%					
②実技試験 30%					
使用テキスト					
最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社					
最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社					
担当教員の実務経験					
介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。					

2023年度、2024年度

科目名	生活支援技術Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	半田 仁、飯嶋 隆	配当年次	1学年、2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

- 1、「生活支援技術」は、尊厳の保持・自立支援・生活の豊かさの観点から、以下の学習とする。
- ①本人主体の生活を「している活動」ととらえる。
 - ②福祉用具を含めた環境の工夫から「できる活動」をふやす。
 - ③できないところの援助を考える。
- 生活支援技術Ⅱでは、以下のねらいとする。
- 2、エンパワメントを引き出し、本人主体の生活を地域で継続するためにICFの視点に基づいた介護過程の展開実践方法を理解する。

到達目標

- ・障害や疾病がある人について、医学的・心理的側面から理解するとともに介護福祉士が行う生活支援の意義を考えることができる。
- ・ICFの視点を生活支援に活かすことの意味を理解し、根拠に基づいた適切な技術を理解する。
- ・対象となる本人の状態・状況に応じた生活支援技術の知識・技術を学び、自立に向けた生活支援を考えることができる。
- ・生活支援技術Ⅱで習得した学びを活かし、福祉用具・環境についての知識・技術を理解する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第41回		第61回	
第42回		第62回	
第43回		第63回	
第44回		第64回	
第45回		第65回	
第46回		第66回	
第47回		第67回	
第48回		第68回	
第49回		第69回	
第50回		第70回	
第51回		第71回	
第52回		第72回	
第53回		第73回	
第54回		第74回	
第55回		第75回	
第56回		第76回	
第57回		第77回	
第58回		第78回	
第59回		第79回	
第60回		第80回	

授業時間外の学習

【講義後】

- ・講義で学習した範囲に出てきた新しい専門用語について復習すること
- ・介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること

成績評価

- 筆記試験及び実技試験 100%
- ①中間試験・学期末試験 70%
 - ②実技試験 30%

使用テキスト

最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社
最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	生活支援技術Ⅲ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	佐藤 真基子	配当年次	2学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
「生活支援技術Ⅲ」は、「こころとからだのしくみ」の科目で学ぶ内容を根拠として、障害や疾病によって、どのような生活上の困りごとが生じるのか、その困りごとに対して、介護福祉士としてどのようなかわりができるのかを学びます。 また、障害や疾病のある人のさまざまな暮らし、さまざまな思いを理解し、尊厳の保持や自立支援をふまえ、どのように介護実践につなげていくのかを学びます。					
到達目標					
①障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解する ②生活上の困りごとを理解する ③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業概要説明/肢体不自由に応じた介護				
第2回	視覚障害に応じた介護				
第3回	聴覚・言語障害に応じた介護				
第4回	【内部障害】心臓機能障害に応じた介護				
第5回	【内部障害】呼吸機能障害に応じた介護				
第6回	【内部障害】腎臓機能障害に応じた介護				
第7回	【内部障害】膀胱・直腸機能障害に応じた介護				
第8回	【内部障害】小腸機能障害に応じた介護				
第9回	【内部障害】HIVによる免疫機能障害に応じた介護				
第10回	【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護				
第11回	重症心身障害に応じた介護				
第12回	知的障害に応じた介護				
第13回	精神障害に応じた介護				
第14回	高次脳機能障害に応じた介護				
第15回	発達障害に応じた介護				
第16回	【難病】筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護				
第17回	【難病】パーキンソン病に応じた介護				
第18回	【難病】悪性関節リウマチに応じた介護				
第19回	【難病】筋ジストロフィーに応じた介護				
第20回	筆記試験				
授業時間外の学習					
事前学習：前回の学びを振り返り、講義内容を把握しておく。 事後学習：授業内容を振り返り、学びを深める。新たな疑問点や課題を明確にしておく。					
成績評価					
定期試験の得点により評価する。 定期試験 90％ 小テスト 10％					
使用テキスト					
・生活支援技術Ⅲ（中央法規） ・配布資料					
担当教員の実務経験					
介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。					

2024年度

科目名	介護過程Ⅲ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	谷内 美和子	配当年次	2学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

- 1、アセスメントから評価まで一連の介護過程における思考過程の演習を繰り返す。
- 2、2段階実習での介護過程の取り組みを踏まえ、事例から自分たちの考えをまとめる。
- 3、事例を一つ一つ丁寧に様々な角度から分析し、利用者の望む生活の実現に向けてあらゆる可能性を追求する姿勢を確認する。
- 4、毎回事例検討記録を提出し教員が確認評価することにより、不足部分の確認をする。
- 5、ケアマネジメントと介護過程の関連性を講義から振り返る。

到達目標

- 1、目の前の利用者に適切な支援を提供できる力を養う。
- 2、ICFの考え方を理解し、介護過程の実践に活かす事が出来る。
- 3、様々な事例から個別援助のあり方を考える。
- 4、2段階実習で情報収集、アセスメント、計画立案までが実践できる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	介護過程の実践的展開 介護過程の展開 オリエンテーション 実習との関連性について
第2回	アセスメントの実際 情報の関連性 情報収集シートについて（観察のポイント）
第3回	アセスメントの実際 情報の整理 ICFシートの確認
第4回	演習 ICFシート記載→提出（自分の情報整理）
第5回	アセスメントの実際 情報の整理 事例1 自宅で夫との生活を継続しているAさん
第6回	演習 ICFシート→提出
第7回	アセスメントの実際 情報の分析 事例2 夫との在宅生活を望むJさんの生活支援 ICF課題・分析シート・
第8回	演習 ICF課題・分析シート→提出
第9回	アセスメントの実際 情報の優先順位 事例3 役割をもって家族と生活するIさん
第10回	演習 ICF課題・分析・個別援助計画書（目標・根拠まで）→提出
第11回	事例3 演習 個別援助計画立案
第12回	演習 ICF課題・分析・個別援助計画書（目標・根拠まで）
第13回	アセスメント・計画立案 事例4 介護老人福祉施設で生活するLさん
第14回	演習 ICF課題・分析・個別援助計画書
第15回	発表：個別援助計画表（目標・根拠・立案）
第16回	実施・評価について 実習に向けての記録について
第17回	介護過程とケアマネジメント
第18回	介護過程とチームアプローチ
第19回	チームアプローチにおける介護福祉士の役割 試験対策
第20回	期末試験60分 解答解説30分

授業時間外の学習

特になし

成績評価

期末試験90%
確認テスト10回：10%

使用テキスト

中央法規出版 「介護過程」 実習記録 事例プリント 介護過程ハンドブック「小菅先生作成」

担当教員の実務経験

医療施設等において看護師としての実務経験を有する。

科目名	介護過程Ⅳ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	小林 桂子	配当年次	2学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

介護過程を理解することで、「尊厳を守るケアの実践」「個別ケアの実践」「自立支援」「多職種協働・連携による適切な支援の提供」「根拠に基づく介護の実践」の実現ができる介護福祉士になることを目指す。
講義/演習を通して、介護過程の基礎知識を理解するとともに、アセスメントから評価までの一連の思考過程を訓練する。
※介護福祉士の専門性を理解することで、「自分がどのような介護福祉士になりたいのか」を改めて考える機会とすること。

到達目標

- ①介護実践の根拠を「考える」ことができる。
- ②一人ひとりの利用者に適した介護を「考える」ことができる。
- ③理論と実践を結びつけることができる。
- ④ケアマネジメント（ケアプラン）と介護過程（個別援助計画）の関連性や連動性を理解することができる。
- ⑤チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解する。
- ⑥専門職として自律的に介護過程の展開ができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	【授業導入】自己覚知～介護過程Ⅳに入る前に自己覚知を促進しよう～
第2回	介護過程における「インテーク」の意味を考えてみよう
第3回	コミュニケーションや観察を通じての情報収集を考える
第4回	「アセスメント」情報を解釈・関連づけ・統合化し、生活課題を明らかにする
第5回	なぜ「考える介護」が必要なのか
第6回	「考える介護（介護過程）」とは何かを考えてみよう
第7回	介護過程とケアマネジメント過程の関連性
第8回	チームアプローチにおける介護福祉士の役割
第9回	リスクマネジメントと介護過程
第10回	介護過程における「倫理的ジレンマ」の意味について考える
第11回	介護過程における「尊厳を守る介護」をどのように提供するかを考える
第12回	「権利擁護」を意識した介護過程を考える
第13回	自律的に介護過程を展開するとは①
第14回	自律的に介護過程を展開するとは②
第15回	自律的に介護過程を展開するとは③（発表）
第16回	自律的に介護過程を展開するとは④（発表）
第17回	事例検討①（動画から介護過程を展開してみよう）
第18回	事例検討②（発表）
第19回	介護研究と介護過程まとめ
第20回	期末試験実施・解答解説

授業時間外の学習

事前学習：テキストに目を通し、介護過程Ⅰ～Ⅲの学習内容をふり返ること（該当ページは授業内にて指示）
事後学習：授業の理解度を高めるため、必要に応じて確認テストを実施（実施について事前に授業内にて指示）

成績評価

期末試験90% 確認テスト10% において評価する

学習内容を深めるため、演習中心の授業となります。
受け身ではなく、主体的に授業へ参加することを期待します。
自分の考えや意見を、積極的に言語化し発信するようにして下さい。

使用テキスト

テキスト：最新・介護福祉士養成講座第9巻「介護過程」 中央法規
資料：演習用として事例やワークシートを作成し、随時配布

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	介護総合演習Ⅲ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	谷内 美和子	配当年次	2学年	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

- (1回～7回：2段階実習前指導)
- 1、目的・目標を明確にする。
 - 2、介護過程の評価まで行うので、計画・予定をしっかりとイメージし自分の行動計画を明確にする。
 - 3、記録の書き方・まとめ方を実施できるように準備する。
 - 4、総合的に、技術面も確認できるようにする。
 - 5、チームの連携について理解する。
 - 6、3段階実習への心構えを態度、知識、技術面でも確認する。
- (8回～11回：実習中の帰校日)
- 1、実習状況の振り返りをする。(①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)

到達目標

- 1、介護過程の展開を軸とした介護実習の目的と目標を理解する。
(情報収集・アセスメント・計画立案まで実施できる)
- 2、実習Ⅱであるため、他の科目での学習を結びつけ、総合的に実習に取り組む準備をして、充実した実習にする。
- 3、自分の傾向を知り、評価する必要性を理解する。

授業計画(授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。)

回数	授業計画・内容
第1回	2段階実習までの準備について説明：同意書・学生カード目標の説明
第2回	書類の配布・確認 (計画予定表の説明、提出タイミングなど)
第3回	介護過程の展開を実施できる行動計画か説明していく。(実習指導者をゲストスピーカーとして招く30分)
第4回	個々の目標との照らし合わせ/毎日の記録の確認 (実習指導者をゲストスピーカーとして招く30分)
第5回	他の教科との結び付きについて場面によるシミュレーション (実習指導者をゲストスピーカーとして招く30分)
第6回	巡回時の確認事項・オリエンテーションの確認
第7回	実習に際しての最終確認を実習の手引きから行う。(時間・身だしなみ・態度・提出書類など)
第8回	帰校日 利用者の情報収集の進み方・課題抽出状況の確認
第9回	帰校日 利用者の情報収集の進み方・課題抽出状況の確認
第10回	帰校日 課題抽出状況・計画立案・実施状況の確認
第11回	帰校日 課題抽出状況・計画立案・実施状況の確認
第12回	実習記録の確認・整理
第13回	実習記録の確認・整理
第14回	実習報告会
第15回	実習報告会
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

実習目標の下書きを期限までに仕上げる

成績評価

- 1、実習評価70%
- 2、実習評価・巡回教員評価・授業評価：30%

使用テキスト

中央法規出版 介護総合演習
実習の手引き
介護過程ハンドブック「小菅先生作成」

担当教員の実務経験

医療施設等において看護師としての実務経験を有する。

科目名	介護総合演習Ⅳ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	谷内 美和子	配当年次	2学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位
授業概要					
(1回～7回：3段階実習前指導) 1、目的・目標を明確にする。 2、介護過程の評価まで行うので、計画・予定をしっかりとイメージして自分の行動計画を明確にする。 3、記録の書き方・まとめ方を実施できるように準備する。 4、総合的に、技術面も確認できるようにする。 5、チームの連携について理解する。 6、3段階実習への心構えを態度、知識、技術面でも確認する。 (8回～11回：実習中の帰校日) 1、実習状況の振り返りをする。(12/16(金)・12/19(金)・12/23(金)・12/26(金))					
到達目標					
1、介護過程の展開を軸とした介護実習の目的と目標を理解する。 (情報収集・アセスメント・計画立案まで実施および評価までできる。) 2、実習Ⅱであるため、他の科目での学習を結びつけ、総合的に実習に取り組む準備をして、充実した実習にする。 3、自分の傾向を知り、評価する必要性を理解する。					
授業計画(授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。)					
回数	授業計画・内容				
第1回	3段階実習までの準備について説明：書類の配布・確認 (計画予定表の説明、提出タイミングなど)				
第2回	計画予定表の説明、提出タイミングなど・オリエンテーションの確認				
第3回	介護過程の展開を実施できる行動計画か説明していく。				
第4回	個々の目標との照らし合わせ				
第5回	巡回時の確認事項・巡回方法の確認				
第6回	実習に際しての最終確認を実習の手引きから行う。(時間・身だしなみ・態度・提出書類・など)				
第7回	帰校日 利用者の情報収集の進み方・課題抽出状況の確認				
第8回	帰校日 利用者の情報収集の進み方・課題抽出状況の確認				
第9回	帰校日 課題抽出状況・計画立案・実施状況の確認				
第10回	帰校日 課題抽出状況・計画立案・実施状況の確認				
第11回	実習記録の確認・整理				
第12回	実習記録の確認・整理				
第13回	実習記録の確認・整理				
第14回	実習報告会				
第15回	実習報告会				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習：次の授業範囲の教科書を読み内容の把握をしておく。介護過程の展開について復習しておく。					
事後学習：授業に合わせ提示する課題を期間内に担当教員へ確認する。なお提出物や忘れ物についても評価に反映される。					
成績評価					
1、実習評価70％ 2、記録物・授業態度・出欠状況・実習報告会で30％					
使用テキスト					
中央法規出版 介護総合演習 実習の手引き 介護過程のしおり					
担当教員の実務経験					
医療施設等において看護師としての実務経験を有する。					

科目名	こころとからだのしくみⅢ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	鈴木 正貴	配当年次	2学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

この授業では、人はどのような状況(環境)・どのような障害をもったとしても「自分らしく生きる」ことを保障されていることを学ぶ。とりわけ、現代において共生社会がさげばれる中、支援する為の基本的な視点を理解することを目指します。また、個人ワークやグループワークを取り入れ、他者の価値観を理解し受け入れ、自分で考え他者に伝える力を養うことを目的とします。

到達目標

この科目を受講する学生は、障害者とは制度としての名称であり、人を支援することにおいてはすべての障害は個性であり、障害者として支援するのではなく個性あるひとりの人間であるという基本的な考え方を理解することがねらいである。また、すべての人がもつ強みをみつける視点やかかわり方、支援方法を習得することを目標とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	人権について考える（人を支援することの基本的視点について理解する）
第2回	知的障害のある人の生活 生活の理解・心理的理解
第3回	知的障害のある人の生活 医学的理解
第4回	知的障害のある人の生活 介護上の留意点
第5回	精神障害のある人の生活 医学的理解・医学的理解・医学的配慮と生活介護
第6回	精神障害のある人の生活 生活の理解・介護上の留意点・生活の理解・介護上の留意点
第7回	精神障害のある人の生活 （人生ここにありを通じて理解する）
第8回	精神障害のある人の生活 （人生ここにありを視聴し、支援の視点を理解する）
第9回	試験対策
第10回	筆記試験
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

事前学習：テキストを事前学習し、講義内容を把握する。

成績評価

小テスト、学期末試験にて評価をする。

- ①小テスト 10%
②学期末試験 90%

使用テキスト

中央法規出版「新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」
レジュメ・資料

担当教員の実務経験

介護施設等において介護福祉士としての実務経験を有する。

科目名	発達と老化の理解Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	谷内 美和子	配当年次	2学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位
授業概要					
1、介護を行う上でのこころとからだのしくみの領域を学ぶ意義について理解できるように授業を展開していく。 2、根拠に基づいた介護支援の必要性を理解し、自身の介護支援を振り返り、介護福祉士としての専門性を高めていく。 3、これまでの学びを基盤として、高齢者の身体面、精神面の関連性、機能の変化、社会的活動の可能性について考える力を養う。					
到達目標					
1、介護の現場に必要な人間の加齢に伴う身体の発達と老化による現象を知る。 2、高齢者のかかりやすい疾患やそれに伴う障害を理解する。 3、上記を踏まえ生活を支える留意点を理解し、利用者の生活支援に繋げる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション 高齢者と健康				
第2回	高齢者に多い疾患と症状				
第3回	骨・関節・筋肉に生じる疾患：日常生活から捉える機能・生理（大腿骨頸部骨折・変形性膝関節症・関節リウマチなど）脳疾患について				
第4回	脳・神経疾患				
第5回	呼吸器疾患（のども含む）：日常生活から捉える機能・生理（呼吸困難・肺炎・慢性閉塞性肺疾患）				
第6回	心臓疾患：日常生活から捉える機能・生理（狭心症・急性心筋梗塞・心不全・不整脈・高血圧）				
第7回	泌尿器疾患：（尿失禁・膀胱炎・前立腺肥大・老人性膀胱炎・尿失禁）				
第8回	腎臓疾患：慢性腎不全・人工透析患者の生活支援				
第9回	消化器疾患：日常生活から捉える機能・生理（胃・十二指腸潰瘍、肝炎、胆石症、肝硬変、便秘）				
第10回	血液疾患：日常生活から捉える機能・生理				
第11回	感染症（ウイルス性・細菌性・その他）				
第12回	皮膚・感覚器疾患：日常生活から捉える機能・生理（老人性皮膚掻痒症・褥瘡・白内障・難聴）				
第13回	皮膚・感覚器疾患：日常生活から捉える機能・生理（白内障・視覚障害・難聴障害）				
第14回	期末試験対策・確認問題のチェック				
第15回	期末試験（試験60分・解答解説30分）				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
毎回の授業の復習					
成績評価					
期末試験：90％ 確認テスト：10％					
使用テキスト					
発達と老化の理解 中央法規出版					
担当教員の実務経験					
医療施設等において看護師としての実務経験を有する。					

2024年度

科目名	障害の理解Ⅱ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	堀 康子、谷内 美和子	配当年次	1学年	開講時期	後期
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

(聴覚障害)
①聴覚障害のある講師が、パワーポイントを使用しながら「手話を見て覚える」(＝手話は視覚言語)ことを重点に手話を知っていただく。
②毎回聴覚障害に関する講義を行い、理解を深める。
③介護の現場で使える手話会話やコミュニケーションについて考える。
④当事者からの実体験や情報を得ることで、テキストにはない聴覚障害者の実態を知る。
(内部障害)
1、内部障害の定義と動向
2、心臓機能障害について(筆記・手話会話実技)

到達目標

(聴覚障害)
①聴覚障害について、またそれに関わる知識、福祉について理解する
②手話を知り、手話を通してコミュニケーションの大切さを知る
③介護現場で使える手話を知り、活かす
(内部障害)
内部障害の医学的理解ができ、その病態に応じた介護のあり方を考えることができる。内部障害の病態の理解をする。
一見分かりにくい内部障害のある生活のしづらさを学び理解する。

授業計画(授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。)

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション：学習の進め方について 導入/あいさつ・自己紹介(名前)の手話
第2回	テーマ：自己紹介表現(名前・家族・数字) 講義：聴覚障害とは？
第3回	テーマ：たずねることば(疑問詞)を覚えて手話で会話をしてみよう 講義：聴覚障害者のコミュニケーションについて
第4回	テーマ：介護で使える手話を覚えてみよう 試験に向けて総復習・確認・まとめ
第5回	期末(授業内)試験(筆記・手話会話実技)
第6回	内部障害とは：心臓機能障害について(医学的理解)
第7回	心臓機能障害について(生活理解)
第8回	呼吸機能障害について(医学的理解)
第9回	腎臓の機能障害・人工透析
第10回	排泄器官の機能障害 人工肛門について・膀胱・泌尿器機能障害：留置カテーテル操作の留意点観察項目
第11回	排泄器官の機能障害 人工肛門について ・膀胱・泌尿器機能障害：留置カテーテル操作の留意点観察
第12回	小腸の機能障害
第13回	肝臓機能障害について
第14回	ヒト免疫不全ウイルス
第15回	期末試験60分・解答解説30分
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

(聴覚障害)
事前学習：テキスト該当ページを読んでおく
『障害の理解』第2章4節 聴覚・言語障害
『生活支援技術Ⅲ』第2章3節 聴覚・言語障害に応じた介護
事後学習：配布したデータに目を通しておく
(内部障害)

成績評価

(聴覚障害)
定期試験の得点により評価する(筆記70%+実技30%)
(内部障害)
1、定期試験 90%・小テスト10%

使用テキスト

(聴覚障害)
<参考テキスト> 以下テキストより抜粋使用
『手にことばを 初級用』公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟発行 税込1,650円

担当教員の実務経験

医療施設等において看護師としての実務経験を有する。

科目名	医療的ケアⅠ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	岩永 秀子	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

2011（平成23）年の法改正により、介護福祉士等も日常生活を営むのに必要な医行為（医療的ケア：喀痰吸引、経管栄養）を業として行えるようになった。本科目では、専門職として医療的ケアを安全・適切に提供するために必要な基礎的知識、技術および態度を理解できるように授業を行う。

到達目標

1. 介護福祉職による医療的ケアに係る制度、倫理について理解する。
2. 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な救急蘇生、感染予防、健康状態の把握について理解する。
3. 喀痰吸引を安全・適切に実施するために必要な基礎的知識、実施手順とその留意点について理解する。
4. 経管栄養を安全・適切に実施するために必要な基礎的知識、実施手順とその留意点について理解する。
5. 医療的ケアを必要としている利用者・家族の気持ちに関心を向けることができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	医療的ケアとは、医行為について	第21回	経管栄養実施手順：手順とポイント（演習直前）
第2回	喀痰吸引等制度、医療的ケアと喀痰吸引等の背景、その他の制度	第22回	喀痰吸引と経管栄養：科目前半のまとめ
第3回	安全な療養生活	第23回	中間試験（60分）解説（30分）
第4回	感染予防	第24回	健康状態の把握：バイタルサイン
第5回	介護福祉職の感染予防、療養環境の清潔・消毒法、消毒と滅菌	第25回	健康状態の把握：バイタルサイン
第6回	健康状態の把握（＊バイタルサインの詳細は後期）	第26回	喀痰吸引概論：利用者・家族の気持ちと対応、説明と同意、
第7回	喀痰吸引概論：呼吸のしくみとはたらき	第27回	喀痰吸引概論：生じる危険、事後の安全確認、ヒヤリハット事例
第8回	喀痰吸引概論：いつもと違う呼吸状態	第28回	喀痰吸引概論：急変・事故発生時の対応と事前対策
第9回	喀痰吸引概論：喀痰吸引とは	第29回	経管栄養概論：利用者・家族の気持ちと対応、説明と同意
第10回	喀痰吸引概論：人工呼吸器と吸引、子どもの吸引、感染予防	第30回	経管栄養概論：生じる危険～発生時の対応と事前対策
第11回	喀痰吸引実施手順：用いる器具・器材のしくみ、清潔保持	第31回	介護福祉職による医療的ケアの提供（まとめ）
第12回	喀痰吸引実施手順：技術と留意点、ともなうケア、報告・記録	第32回	介護福祉職による喀痰吸引の提供（まとめ）
第13回	経管栄養概論：消化器系のしくみとはたらき	第33回	介護福祉職による経管栄養の提供（まとめ）
第14回	経管栄養概論：消化・吸収とよくある消化器の症状	第34回	後期期末試験（60分）解説（30分）
第15回	経管栄養概論：経管栄養とは、注入する栄養剤に関する知識	第35回	
第16回	経管栄養概論：実施上の留意点、子どもの経管栄養、感染予防	第36回	
第17回	経管栄養実施手順：用いる器具・器材のしくみ、清潔保持	第37回	
第18回	経管栄養実施手順：技術と留意点、必要なケア、報告・記録	第38回	
第19回	喀痰吸引実施手順：手順とポイント（演習直前）	第39回	
第20回	喀痰吸引実施手順：手順とポイント（演習直前）	第40回	

授業時間外の学習

事前学習：次回2コマ分の学習内容を予習する（授業範囲の教科書を読む）。

事後学習：授業2コマ分の学習内容を復習する。

毎回2コマ連続の最初に確認テストを行う。確認テストの範囲は、前回2コマの授業内容を主とした既習学習内容とする。

成績評価

定期試験の得点により評価する。

定期試験 90%

小テスト 10%

使用テキスト

中央法規 医療的ケア

担当教員の実務経験

医療施設等において看護師としての実務経験を有する。

科目名	医療的ケアⅡ	対象学科	介護福祉学科		
担当教員	谷内 美和子、岩永 秀子、鈴木 昭子、西川 美佐子、小林 洋之	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位
授業概要					
1、経管栄養：ＡＢに分かれて5名ずつのグループに教員１名付き実施指導を行う。演習評価票の手順で実施する。 胃瘻または腸瘻による経管栄養5回以上 2、喀痰吸引：ＡＢに分かれて5名ずつのグループに教員１名付き 実施指導を行う。演習評価票の手順で実施する。 口腔内・鼻腔内喀たん吸引 各5回以上 気管カニューレ内部吸引 5回以上 *全15コマ出席し、喀痰吸引・経管栄養5回、緊急時対応1回の中で合格することで基礎研修終了となる。 最初に身だしなみ確認、デモンストレーション・注意事項など説明が入るため、遅刻した場合は実技に途中から出席できない。早退も 不可です。遅刻・早退は、各単位の遅延による遅刻・早退と見做されます。					
到達目標					
1、医療的ケア（経管栄養）を安全に行う、知識、技術を学ぶ。 ① 経管栄養のしくみと種類を学ぶ。 ② 経管栄養の管理法を学ぶ 2、医療的ケア（喀痰吸引）を安全に行う、知識、技術を学ぶ。 ① 喀痰吸引のしくみと種類を学ぶ。 ② 喀痰吸引の管理法を学ぶ					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	口腔内・鼻腔内喀痰吸引（1人5回以上）				
第2回	口腔内・鼻腔内喀痰吸引（1人5回以上）				
第3回	口腔内・鼻腔内喀痰吸引（1人5回以上）				
第4回	気管カニューレ内部吸引（1人5回以上）				
第5回	気管カニューレ内部吸引（1人5回以上）				
第6回	気管カニューレ内部吸引（1人5回以上）				
第7回	経鼻経管栄養（1人5回以上）				
第8回	経鼻経管栄養（1人5回以上）				
第9回	経鼻経管栄養（1人5回以上）				
第10回	胃ろう・腸ろうによる経管栄養（1人5回以上）				
第11回	胃ろう・腸ろうによる経管栄養（1人5回以上）				
第12回	胃ろう・腸ろうによる経管栄養（1人5回以上）				
第13回	緊急時対応：（1人1回以上）緊急時対応ワーク 12月12日				
第14回	緊急時対応：（1人1回以上）緊急時対応ワーク 12月12日				
第15回	緊急時対応：（1人1回以上）緊急時対応ワーク 12月12日				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習：次の授業範囲の教科書を読み、手順の確認をしておく。					
成績評価					
担当教員による実施状況をABCDで評価。A～C評価は基礎研修終了					
使用テキスト					
中央法規出版 医療的ケア					
担当教員の実務経験					
医療施設等において看護師としての実務経験を有する。					